

Book Reviews

コーネル・ウェスト著 (越智博美・松井優子・三浦玲一訳)
『民主主義の問題——帝国主義との闘いに勝つこと』

法政大学出版局 2014年

山城雅江

Cornel West, *Democracy Matters: Winning the Fight Against Imperialism*,
Japanese Translation by Hiromi Ochi, Yuko Matsui, Reiichi Miura

Masae YAMASHIRO

アメリカ合衆国ではすでに非常に著名な存在でありながら、意外にも日本での学術的注目はそれほど高くはなかったコーネル・ウェストへの日本における幅広い注目への転機となったのは、2008年のウェストの来日に伴う日本各地（東京、京都、広島、沖縄）での講演と言えよう。エマソンを典型とするいわゆる「パブリック・インテリジェント」のアメリカ的系譜にも連なるウェストの、すなわちアメリカで出版される学術論文における引用回数ランキングの上位に位置し続ける研究と、ポピュラー・メディアでの諸活動（政治・社会問題に対するコメンテーターとしてのTV・ラジオ出演、映画『マトリックス』シリーズやTV番組『30 Rock』への出演、ヒップ・ホップ・アーティストとしてのCDアルバムのリリース）、そして人権問題や社会的正義に積極的に関わるアクティビズムを総合する知性の、稀有なプレゼンスと表現実践は日本における彼の著作への関心を大いに刺激したように見える。ウェストの主著の一つである *Race Matters* (1994) の日本語訳（『人種の問題——アメリカ民主主義の危機と再生』山下慶親訳）が来日講演に合わせた2008年に出版、少し遅れて更に二つの主著—*The American Evasion of Philosophy: A Genealogy of Pragmatism* (1989), *Democracy Matters: Winning the Fight Against Imperialism* (2004)

—の日本語訳である『哲学を回避するアメリカ知識人』（村山淳彦訳）と『民主主義の問題——帝国主義との闘いに勝つこと』（越智博美訳）が2014年に続けて出版されたことによって、ウェストの言語表現への日本での「アクセスし易さ」が格段に高まることとなった。

表題の交錯・類似にも明示されているように『民主主義の問題 (*Democracy Matters*)』は『人種の問題 (*Race Matters*)』の延長線上に正確に位置づけられるもので、「民主主義」と「人種」をめぐる諸状況は密接不可分の深く内在的な関係にあるというウェストの不変の問題意識が両著作には底流している。ウェストはすでに『哲学を回避するアメリカ知識人 (*The American Evasion of Philosophy*)』において、ヨーロッパ哲学のデカルト的認識論・観念論の弊害を「回避」してきたアメリカ・プラグマティズムの系譜を確認しつつ、プラグマティズムにおける社会構造や権力関係への実際的関心とその回避手段の一つとなってきたことを検証し、更なる包含的な社会・政治参加を支える「預言的プラグマティズム」について議論していた。その意味で『人種の問題 (*Race*

Matters)』と『民主主義の問題 (Democracy Matters)』は、『哲学を回避するアメリカ知識人 (The American Evasion of Philosophy)』における学術的提起を、実際の社会・政治状況により深く関与する形で自ら引き受けた著作となっている。本書『民主主義の問題 (Democracy Matters)』でもソクラテスやエマソンを模範とする「知識人の役割」が各所で随時考察されているが、ウェストのそれにも社会の〈今〉に呼応する「声を大にして」の働きかけが含まれており、両著作もまたその「書かれた」アクションとすることができる。

アカデミズムの内外で関心を集めベストセラーとなった『人種の問題 (Race Matters)』では1992年のロス暴動をきっかけに改めて顕在化した「人種」をめぐる諸関係を多方面から、そしてどちらかと言えば比較的の同時代的諸問題を主軸に分析していた。一方、本書『民主主義の問題 (Democracy Matters)』は2001年「9.11」以後のアメリカの状況に対する応答である。ウェストの学際的知識と洞察は『人種の問題 (Race Matters)』と同様に膨大かつ鋭利であるが、「9.11」以後「対テロ戦争」の名のもとに帝国主義的力が増大するアメリカの現状とそれによって危機的状況に陥った「民主主義」を扱う本書は、通時的な歴史的検証を多分に含み、前作とは違った意味で奥行きのある考察となっている。ウェストにとって「民主主義」は選挙制度や統治システムといった狭義のそれではない。「民主主義はものごとの名前を表す名詞というよりは、むしろ行為を表わす動詞」であり「存在の文化様式」(75)であって、絶え間ない創造のプロセスにある、ある種の「アイデンティティ」のようなものとして認識されている。「9.11」以後の帝国化するアメリカを直視しつつ、前作で用いた問題設定や諸概念を再度編み直し、様々な事柄と横断的に繋いで「民主主義」の思想的な抵抗の契機を探ることが本書を貫く基本的特徴となっている。

簡単に各部の内容を概観してみたい。

第1章「民主主義は恐ろしい状況に陥っている」と第2章「アメリカにおけるニヒリズム」

は、「9.11」以後のアメリカにおける反民主主義的力の台頭を促す諸要素—「自由市場原理主義」、外交政策に象徴される「攻撃的軍事姿勢」、増大する権威主義」(10)や、シニシズム、政治的無関心、文化的な現実逃避といったアメリカ民主主義体制への幻滅(32)から生じる意味や希望の崩壊としてのニヒリズムの種々の形態、「共和国」と「帝国」の歴史的な表裏一体性などを多領域に渡って細かく目配りしながら吟味している。今日のような民主主義の危機的状況下における思想的な闘い、ウェストによれば、それはアメリカの民主主義に内在する反帝国主義の伝統と歴史の想起(「アメリカの深い民主主義の伝統が持つエネルギーとのつながりを取り戻すこと」16)であり、具体的には、権威やドグマに対する「ソクラテス的な問いかけ」と、どの宗教にも見出される「預言的な正義への献身」、そしてニヒリズムを回避する「悲喜劇的な希望」の保持である。一見しただけでは分かりにくいこれらの3つの要素は本書の最終章では合わせて「民主主義の鎧」とも呼ばれるウェスト独特の実践的概念であるが、第2章以降も様々な箇所ですべて都度新しい事例と組み合わせて論じられるため本書全体を通じて読者の理解を助ける形になっている。

帝国主義的・権威主義的動きに抗う伝統や歴史の分析が特に深まりを見せるのは、第3章「アメリカにおける民主主義の豊かな伝統」と第4章「民主主義的なユダヤとイスラムのアイデンティティを形成すること」である。前者ではアメリカにおける民主主義的伝統の体現者としてのエマソンとメルヴィル、またその二人に連なるボールドウィンとモリスンの著作が取り上げられ、彼／彼女らの創造する「民主主義的アイデンティティ」とその貢献が積極的に検討されている。アメリカの芸術表現にある「帝国主義の破壊行為を監視する長い伝統」(112)を浮き彫りにするために、ここでもウェストの、とりわけ哲学、文学、黒人研究に関する幅広い見識が遺憾なく発揮されている。民主主義のアメリカにおける伝統を扱った前者に対し、後者はユダヤとイスラムの二つの社会

における民主主義的伝統を神学的な見地から検証するものである。イスラエルとパレスチナ・アラブの関係とそれに対するアメリカの関与の歴史の適切な概略を提供し、「9.11」以後アメリカで流布する保守レトリックの誤謬を修正すべく、それぞれの宗教にある「預言的な伝統」を、その地の歴史・文化と絡めながら確かめていく。神学者であるウェストならではのアプローチであり、「民主主義」の多様性と地域性に対する信頼、そして何より絶対的に対立するかに見える両者への共通の基盤構築への誘いがここには込められている。

第5章「アメリカにおけるキリスト教アイデンティティの危機」と第6章「若者文化に関与することの必要性」は、扱われる領域はかなり違うものの、アメリカの大衆的な文化政治に興味をもつ者にとっては同じくらいに一際気になる章ではないだろうか。アメリカ・キリスト教右派の影響力が「9.11」以後「ティー・パーティー」といった保守ポピュリズム等とも重複しながら益々増大するなか、この危機的な混沌状態に神学者でもあるウェストはどのような視点で切り込むのか。また、ブルースやジャズといったブラック・ミュージックを語り（第2・3章参照）、ヒップ・ホップ・アーティストでもある彼が「若者文化」をどう捉えているのか。ウェストが両方の主題において提示する見取り図は、事象が極めて多岐に渡っているものの、比較的明確である。第5章においてウェストはまず「コンスタンティヌスのキリスト教」と「預言的キリスト教」の区別を基礎にしたうえで現状分析をし、排他的で帝国主義的なアイデンティティに対抗する預言的キリスト教が民主主義に対して果たしてきた重要な役割をアメリカ史において跡付けている。この二項的な区別の妥当性は評価の分かれるところではあるが、黒人教会の役割や世俗主義者の見解、宗教右派の歴史的動向やリベラル派の新しい動きをも含む広範な事例の諸関係を検証し「民主主義的なキリスト教アイデンティティ」の創出の必要性を指摘する議論は、アメリカにおいてキリスト教を別の仕方と定義しようとする切迫した試みを一層促進するも

のとなるだろう。アメリカの若者、特に黒人の若者たちを取り巻く諸問題とニヒリズム、そして公民権運動からシアトルの抗議活動に至る民主主義的実験における若者の役割の同時想起で始まる第6章ではヒップ・ホップに対するウェストの見解が焦点の一つとなっている（もう一つの焦点は、若者文化との関与を含めた「学問外」の活動を問題化され、ウェストがハーバード大を辞めることになった経緯の検証である）。ヒップ・ホップの道程を整理するうえでウェストが用いる概念は再び「コンスタンティヌスのヒップ・ホップ」と「預言的ヒップ・ホップ」である。主流化の波による黎明期の力強い詩と鋭い社会批判の消失、拝金主義、女性蔑視。しかしながら、様々なミュージシャンの歌詞や言葉を引用して作図されるウェストの見取り図には対話と活力が依然として潜在しているように見えるのである。「若者に預言的なブラック・ミュージックの歴史を教え」「彼らにヒップ・ホップの政治的な基盤を示すこと」（201）が、ウェストが自らの「非学問的」活動に課した目標であることも明示されている。

第7章「民主主義という鎧を身につけること」は、アテネにおける民主主義誕生の時代背景や権力システムを考察しながら、民主主義の原点である「ソクラテス的な対話」への立ち返り、そして更にはソクラテスを超越する宗教的な共感能力の今日における必要性を論じて、再び「民主主義の鎧」—「ソクラテス的な問いかけ」、「預言的な正義への献身」、「悲喜劇的な希望」—へと読者の目を差し向ける。各章の最終部がほとんどそうであるように、ここでもまた直喩・隠喩を多用した、ブルースを呼び起こすような「悲喜劇的に希望的」なトーンで本書は締め括られている。

本書に対する学術的批判としてはいくつかのもの（例えば、ウェストの設定するカテゴリーの妥当性や各検証の短さに付随する不全感等）が想定されうるが、いわゆる「科学性」や「客観性」、「理性」といったものに重きを置くアカデミズムにおいては、ウェストの議論に顕著な宗教的言葉遣いや身振りの混在が、もしかするとその一番の

暗黙の標的になるのかもしれない。本書の「訳者解説」にもあるように、ウェストの思考と言葉の特徴は、学術的な思考にキリスト教的な愛を支柱として取り込み実際の行動に繋げていこうとする点である。ゆえにそこには教会での説法的な举措、黒人牧師・指導者にとってある意味で「伝統的」なパブリック・スピーチの鼓舞の調子が必然となるのだが、それを学領域から排除すべきと考えるものも多いはずである。公共の学問的言説における宗教的言葉遣いの行使が諸刃の剣となる可能性への憂慮はもちろん妥当だが、しかし、ここではウェストが直接的に日々交渉・折衝しているアメリカの宗教をめぐる現実に再度留意する必要があるだろう。アメリカの宗教国家性の前景化のプロセスで明らかになったのは、ウェストも痛感しているように、巧妙に編み出された保守主義・右派のレトリックのアメリカ一般大衆への巨大なアピール力と、進歩的民主主義者の言説の大衆的説得力の欠如というコントラストである。今日の世界が（そしておそらく今日に限らずほとんどの時代においてはそうだったのでないかと推測するのだが）「宗教」なしで済ますことができない

のだとすれば、学術的思考・論理に裏打ちされた洞察とキリスト者としてのパッション・憤怒を絶妙なバランスで接合させた本書ほどにプラグマティック（実用的）で、示唆に富み、驚くほどに新鮮に響くものはないだろう。一つの領域に囚われないウェストの諸活動の、ラップのリズムのような軽妙さは、学問や教会やストリートを繋ぐ網目の強度と、詩的な言葉の確かさがあるからこそ可能となる。多くはそのような横断を望みはしないだろうが、しかし仮に望んだとしても果たして同等の効果と魅力を持ちうるかは甚だ疑わしい。

民主主義の来るべき未来と共振する本書が原著の出版から10年経った現在の日本でかえってヴィヴィッドに迫ってくる。それは本書の基本的な問いが、諸状況の差異はあったとしてもなお、今の日本においても極めて有効だからである。それは必然的にこの地の現状への異議申し立てとなる。最後にウェストの言葉をその独特の声と身のこなしのままの翻訳で、そして、原著にはなかった訳注を数多く丁寧に配して日本語読者の理解がし易いような形で届けてくれた訳者の方々、とりわけ早世された三浦玲一氏に深く感謝したい。

河野光雄教授 略歴および主要業績目録

1. 生年月日 1944年11月9日

2. 学歴および職歴

- 1964年4月 東京大学教養学部入学
 1966年4月 東京大学教養学部基礎科学科進学
 1968年3月 東京大学教養学部基礎科学科卒業
 1969年4月 東京大学大学院理学系研究科相関理化学専攻修士課程入学
 1971年4月 東京大学大学院理学系研究科相関理化学専攻博士課程進学
 1972年10月 東京大学大学院理学系研究科相関理化学専攻博士課程退学
 1972年11月 九州大学応用力学研究所助手
 1980年9月 九州大学応用力学研究所助教授
 1980年9月 九州大学大学院工学研究科授業担当
 1985年4月 九州大学大学院総合理工学研究科助教授
 1993年4月 中央大学総合政策学部教授
 1999年4月 中央大学情報教育研究センター所長
 1999年11月-2001年10月 中央大学総合政策学部学部長
 2009年3月-2009年4月 中央大学学長専門員
 2009年4月-2009年10月 中央大学国際交流センター所長
 2009年11月-2011年10月 中央大学総合政策学部学部長



3. 兼職歴および学会役員等

- 1979年7月-1980年9月 オックスフォード大学理論物理学研究科研究員
 1980年10月-1981年8月 マックスプランクプラズマ物理学研究所研究員
 1987年4月-1993年3月 九州大学工学部非常勤講師
 1987年5月-1987年9月 ダームシュタット工科大学客員教授
 1988年12月-1989年2月 ニューサウスウェールズ大学理論物理学科客員教授
 1989年10月-1989年12月 テキサス大学核融合研究センター客員研究員
 1989年7月-1990年9月 カリフォルニア大学ローレンスバークレー研究所客員研究員
 1991年4月-1992年3月 宮崎大学工学部非常勤講師
 1991年4月-1993年3月 九州芸術工科大学非常勤講師
 1993年4月-1994年3月 新潟大学理学部非常勤講師
 1994年7月-1994年8月 オスロ大学天体物理学科客員教授
 1994年4月-1995年3月 静岡大学理学部非常勤講師
 1995年7月-1995年8月 オスロ大学天体物理学科客員教授
 1995年4月-1996年3月 名古屋大学大学院工学研究科非常勤講師

- 1995年4月－1997年3月 日本物理学会会誌編集委員
 1995年4月－2014年3月 中央大学大学院理工学研究科物理学専攻非常勤講師
 1996年4月－1998年3月 日本物理学会 Journal 編集委員
 1996年4月－2002年3月 山梨大学工学部非常勤講師
 1997年4月－1998年3月 静岡大学理学部非常勤講師
 2002年4月－2003年3月 名古屋大学大学院理学研究科非常勤講師
 2008年4月－2009年3月 沖縄国際大学経済学部非常勤講師

4. 賞罰

Best Poster Award on the area of theoretical analysis presented at the XXVIIth International Conf. on Phenomena in Ionized Gases (Eindhoven, July 22, 2005)
 “Typhoon-like Density Hole Structure in Weakly Ionized Plasmas”

5. 著書等

1. 「社会現象の数理解析：微分・積分と現象のモデル化」, 中央大学出版部 (1995)
2. 「社会現象の数理解析：線形代数と政策の最適化」, 中央大学出版部 (1996)
3. 「社会現象の計算機実験：Mathematica と Excel をつかって」, 中央大学出版部 (1996) (共著者 佐野健一)
4. 「統計学の基礎」, 牧野書店 (2003) (共著者 友知政樹)
5. “Nonlinear Physics of Plasmas”, Springer (2010) (共著者 Milos Skoric)

6. 論文等

(英文)

1. M. Kono and H.Sanuki “A new approach for deriving the K-dV equation”, *J. Phys. Soc. Jpn.* **33**, 1731 (1972)
2. M.Kono and Y.H.Ichikawa “Renormalization of the wave-particle interaction in weakly turbulent plasmas”, *Prog. Theor. Phys.* **49**, 745 (1973)
3. M.Kono “Other asymptotic methods for deriving a far field approximation”, *Prog. Theor. Phys. Suppl.* **55**, 80 (1974)
4. M.Kono, H.Sanuki and J.Todoroki “Effects of dynamical friction on the renormalization of propagator in turbulent plasmas”, *Phys. Letters* **51 A**, 247 (1975)
5. M.Kono and N.Yajima “Parametric interaction of laser beam with inhomogeneous plasmas”, *Reports Res. Ins. Appl. Mech. (kyushu Univ.)* #22, 117 (1975)
6. M.Kono, H.Sanuki and J.Todoroki “Frictional effects on the renormalization of propagator in turbulent plasmas”, *Reports Res. Ins. Appl. Mech. (kyushu Univ.)* #22, 101 (1975)
7. M.Kono and N.Yajima “Instability of coherent ion acoustic wave in a phonon gas”, *J. Phys. Soc. Jpn.* **41**, 272 (1976)
8. M.Kono and N.Yajima “Modulational instability of ion acoustic wave in a turbulent phonon field”, *J. Phys. Soc. Jpn.* **43**, 1745 (1977)
9. H.Iwakura and M.Kono “Parametric decay instability of ion acoustic waves caused by a finiteness of

- pump wave amplitude”, *J. Phys. Soc. Jpn.* **43**, 2056 (1977)
10. M.Kono “Nonlinear wave modulation in strongly dispersive systems with a random field”, *J. Phys. Soc. Jpn.* **44**, 676 (1978)
 11. M.Kono and N.Yajima “Application of linear response theory to dielectric and conduction problem in a turbulent plasma”, *Report Inst. Plasma Phys. (IPPJ, Nagoya Univ.)* #325 (1978)
 12. K.Kogiso, M.Kono and N.Yajima “Acoustic turbulence trapped in the modulated Langmuir wave and its effect on the collapse”, *J. Phys. Soc. Jpn.* **46**, 659 (1979)
 13. M.Kono and F.Kako “Successive bifurcations to chaotic state in the nonlinear evolution of collisional drift wave”, *J. Phys. Soc. Jpn.* **47**, 659 (1979)
 14. M.Kono, N.Yajima and D. ter Haar “A sum-rule analysis of collective modes in a turbulent plasma”, *Phys. Letters* **76 A**, 234 (1980)
 15. M.Kono, M.Skoric and D. ter Haar “The kinetic theory of magnetic field generation in a Langmuir plasma”, *Phys. Letters* **77 A**, 27 (1980)
 16. M.Kono, M.Skoric and D. ter Haar “Collapse dynamics of a self-magnetized Langmuir plasma”, *Phys. Letters* **78 A**, 140 (1980)
 17. M.Kono, M.Skoric and D. ter Haar “On the ponderomotive force in a dispersive medium in a variable electromagnetic field”, *Phys. Rev. Letters* **45**, 1629 (1980)
 18. Kono M., Skoric M.M., ter Haar D., Nonlinear Theory of the Magneto-Modulational Instability, SPIG-80, Summer School and International Symposium on the Physics of Ionized Gases, Dubrovnik (1980)
 19. M.Kono, M.Skoric and D. ter Haar “Spontaneous excitation of magnetic fields and collapse dynamics in a Langmuir plasma”, *J. Plasma Phys.* **26**, 123 (1981)
 20. Y.Kawai, Ch.Hollenstein and M.Kono “Observation of a decay instability of an ion beam-plasma system”, *Phys. Fluids* **24**, 1056 (1981)
 21. Kono M., Skoric M.M., ter Haar D., The Ponderomotive Force in a Plasma Medium, in *Fusion Energy*, ed. B. McNamara, IAEA (1982)
 22. M.Kono and P.Mulser “Effect of trapping on breaking of large amplitude plasma oscillations”, *Phys. Fluids* **26**, 3004 (1983)
 23. N.Yajima, M.Kono and S.Ueda “Soliton and nonlinear explosion modes in an ion beam plasma system”, *J. Phys. Soc. Jpn.* **52**, 3414 (1983)
 24. M.Kono “Clump kinetics in turbulent plasmas”, Eds. W. Horton Jr. and L. Reichl, “*Statistical Physics and Chaos in Fusion Plasmas*”(John Wiley and Sons, 1984)
 25. S.Ueda, M.Kono and N.Yajima “Soliton and nonlinear explosion modes in an ion beam plasma system II: Numerical studies of wave evolution in a periodic system”, *J. Phys. Soc. Jpn.* **53**, 2281 (1984)
 26. M.Kono “A route to turbulence in nonlinear development in an ion beam plasma instability”, *Phys. Fluids* **28**, 1494 (1985)
 27. M.Kono “Nonlinear development of a beam plasma instability”, Eds. M. M. Popovic and P. Krstic, “*The Physics of Ionized Gases*”(World Scientific, 1985)
 28. M.Kono “Solitons and beam reflection in an ion beam plasma system”, *Phys. Fluids* **29**, 1268 (1986)
 29. M.Kono, M.Tanaka and H.Sanuki “A stationary electron hole associated with a Langmuir wave”, *Physica Scripta* **34**, 235 (1986)

30. M.Kono, M.Skoric and D. ter Haar "The hydrodynamics of ponderomotive interactions in a collisionless plasma", *Phys. Fluids* **30**, 270 (1987)
31. M.Kono and H.Sanuki "Ponderomotive force near cyclotron resonance", *J. Plasma Phys.* **38**, 43 (1987)
32. M.Skoric and M.Kono "Ponderomotive and fluid response in a magnetized plasma", *Phys. Fluids* **31**, 418 (1988)
33. M. Kono and E. Miyashita "Modon formation in the nonlinear development of the collisional drift wave instability", *Phys. Fluids* **31**, 326 (1988)
34. M. Kono and R. Iwano "Ponderomotive force at the onset of chaos", *Phys. Fluids* **31**, 1297 (1988)
35. M. M. Sloric and M. Kono "Ponderomotive versus fluid response in a fusion plasma", *Controlled Fusion and Plasma Heating* **12 B** (part III), 1283 (1988)
36. M. Kono and M. Kawakita "Temporally and spatially pulsating solitons in a nonlinear stage of the long wave Buneman instability", *Phys. Fluids B* **2**, 1084 (1990)
37. N. Hamamatsu and M. Kono "Chaotic evolution of the Buneman instability in the vicinity of the resonance", *Phys. Fluids B* **2**, 1780 (1990)
38. H. Hojo, T. Ogawa and M. Kono "Fluid Description of Ponderomotive Force Comparable with the Kinetic One in a Warm Plasma", *J. Phys. Soc. Jpn.* **60**, 3184 (1991)
39. M. Kono and W. Horton "Point vortex description of drift wave vortices: Dynamics and transport", *Phys. Fluids B* **3**, 3255 (1991)
40. M. Kono, H. Nakashima and A. Komori "Cascading Bifurcations to Chaos in a Current Carrying Sheath", *J. Phys. Soc. Jpn.* **61**, 404 (1992)
41. H. Shibahara and M. Kono "RF-confinement of drift wave vortices based on the modulated point vortex model", *Engineering Sciences Report (Kyushu University)* **13**, 369 (1992)
42. M. Kono "Solitons and vortices in unstable plasmas", Eds. M. Enokizono and J. P. Nowacki, "Electromagnetic Phenomena and Computational Techniques" (Elsevier Science Publishers, 1992)
43. A. Komori, M. Kono, T. Norimine, T. Tanaka and Y. Kawai "Experimental measurement of cascading bifurcations to chaos in an ion sheath", *Proc. Int. Conf. on Plasma Phys. (Innsbruck)* Vol.3, 1855 (1992)
44. A. Komori, M. Sugimoto, M. Kono, M. Tanaka and Y. Kawai "Production of a high density plasma by helicon waves", *Proc. Int. Conf. on Plasma Phys. (Innsbruck)* Vol.3, 1887 (1992)
45. H. Shibahara, M. Kono and W. Horton "Chaotic dynamics of drift wave vortices in a bounded region", *Phys. Fluids B* **4**, 2992 (1992)
46. M. Kono and A. Komori "A theory of bifurcation and chaos observed in an ion sheath", *Phys. Fluids B* **4**, 3569 (1992)
47. A. Komori, M. Kono, T. Norimine and Y. Kawai "Bifurcations and chaos in an current carrying plasma", *Phys. Fluids B* **4**, 3577 (1992)
48. H. Shibahara and M. Kono "Periodic, aperiodic and chaotic motion of drift wave vortices in a circular region", *Chaos, Solitons and Fractals* **2**, 597 (1992)
49. N. Ohno, A. Komori, M. Kono and Y. Kawai "Chaotic behavior driven by an external periodic oscillation in a current carrying unstable ion sheath", *Phys. Fluids B* **5** (No.3), 796-805 (1993)

50. M. Kono and A. Komori "A shift down test of resonance frequency for the cascading bifurcations to chaos", *IEICE TRANS. E* **76-A** (No.7), 1273–1275 (1993)
51. K. Yabuki, K. Ueno and M. Kono "Dynamics of drift wave vortices in a cylindrical plasma", *Phys. Fluids B* **5** (No.8), 2853–2857 (1993)
52. K. Yabuki and M. Kono "Collective behavior of vortices in a cylindrical magnetized plasma", *Phys. Fluids B* **5** (No.8), 3101–3105 (1993)
53. M. Kono, H. Shibahara and K. Yabuki "Point vortex dynamics in a magnetized plasma", *AIP CONFERENCE PROCEEDINGS* **284**, 559–578 (AIP Press, 1994)
54. M. Kono and A. Komori "A continued fraction expansion and the onset of chaos", *IEICE TRANS. E* **77-A** (No.2), 417–421 (1994)
55. A. Komori, T. Baba, T. Morisaki, M. Kono, H. Iguchi, K. Nishihara, H. Yamada, S. Okamura and K. Matsuoka "The correlation dimension and largest Lyapunov exponent for broadband edge turbulence in the Compact Helical System (CHS)", *Phys. Rev. Letter* **73**, 660–663 (1994)
56. M. Kono and K. Yabuki "Point vortex description of drift wave vortices: dynamics, chaos and self-organization", *Low Temperature and General Plasma* (Nova Science Publishers, 1996)
57. H. Shoyama, M. Tanaka, S. Higashi, Y. Kawai and M. Kono "Stochastic Electron Acceleration by an Electron Cyclotron Wave Propagating in an Inhomogeneous Magnetic Field", *J. Phys. Soc. Jpn.* **65**, 2860–2866 (1996)
58. M. M. Skoric, M. S. Jovanovic, M. R. Rajkovic and M. Kono "Spatio-temporal intermittency and chaotic stimulated Raman backscattering", *Transport, Chaos and Plasma Physics 2* (edited by S. Benkadda, F. Doveil and Y. Elskens), 245–249 (World Scientific, 1996)
59. Skoric M.M., Jovanovic M.S., Rajkovic M.R., Kono M., Coherence and turbulence in nonlinear three-wave backscatter, in *Adv. Series in Nonlinear Dynamics—Transport, Chaos and Plasma Physics 2*, ed. Benkadda, World Scientific, Singapore (1996), p. 245
60. M. Kono and K. Yabuki "Point Vortex Description of Drift Wave Vortices: Dynamics, Self-Organization and Chaos", *J. Magnetohydrodynamics and Plasma Research* **7**, No.2–3, 207–223 (1997)
61. M. Tomochi and M. Kono "Social Evolution Based on Prisoner's Dilemma with Generation Dependent Payoff Matrices", *Research on Policy Studies* **3**, 79–91, (1998)
62. M.Kono, B. Krane, H. L. Pecseli and J. Trulsen "Vortex dynamics in magnetized plasmas", *Physica Scripta* **58**, 238–245 (1998)
63. M.Kono, B. Krane, H. L. Pecseli and J. Trulsen "Localization and Vortices in Strongly Magnetized Plasmas", *Physica Scripta T* **75**, 290–294 (1998)
64. M. Tomochi and M. Kono "Chaotic Evolution of Arms Races", *Chaos* **8**, 808–813 (1998)
65. Lj.R.Hadzievski, M.M.Skoric, M.Kono and T.Sato "Simulation of Weak and Strong Langmuir Collapse Regimes", *Phys. Letters Vol. 248*, No. 2–4, pp. 247–251 (1998)
66. M. Kono "Organized motions in two dimensional magnetized plasmas", *THE PHYSICS OF IONIZED GASES* (Ed. By N.Konjevic, M. Cuk and S. Djurovic) (University of Belgrade Press), pp.429–448 (Jan., 1999)
67. M. Kono and M. Tanaka "Theory for Spiral Structure Formation in Rotating Plasmas", *Physica Scripta T* **84**, pp. 47–51 (2000)

68. M. Kono, H. L. Pecseli and J. Trulsen "Kinetic Theory of Vortex Crystal Formation in Electron Plasmas", *Physica Scripta* **61**, pp. 489–493 (2000)
69. M. Kono and M. Tanaka "Spiral Structures in Magnetized Rotating Plasmas", *Phys. Rev. Letters* **84**, pp. 4369–4372 (2000)
70. J. Vranjes, M. Kono, E. Lazzaro and M. Lontano "Electromagnetic Vortices in Pair Plasmas", *Proc. of 20th International Symposium on the Physics of Ionized Gases*, (Zlatibor, Yugoslavia) pp. 559–562 (Sept. 2000)
71. J.Vranjes, A.Okamoto, K.Nagaoka, S.Yoshimura, M.Y.Tanaka and M.Kono "Stationary Potential Structures in ECR Plasmas", *Proc. of 20th International Symposium on the Physics of Ionized Gases* (Zlatibor, Yugoslavia) pp. 571–574 (Sept. 2000)
72. J.Vranjes, M.Kono, E.Lazzaro and M.Lontano "Electromagnetic vortices in streaming pair plasmas", *Phys. Plasmas* **7**, pp. 4872–4877 (Dec. 2000)
73. J.Vranjes, P.K.Shukla, M.Kono and S.Poedts "Linear and nonlinear electrostatic modes in a nonuniform magnetized electron plasma", *Physics Plasmas* **8** pp.3165–3176 (July, 2001)
74. M.Tomochi and M.Kono "Spatial Prisoner's Dilemma with Dynamic Payoff Matrices", *Phys. Rev. E* Vol.**65**, 026112 pp. 1–6 (Jan. 2002)
75. J.Vranjes, M.Y.Tanaka and M.Kono "Magnetic rope structures in the electromagnetic interchange mode", *Phys. Plasmas* Vol.**9**, N 0.7 2954–2958 (July, 2002)
76. K.Nagaoka, A.Okamoto, S.Yoshimura, M.Kono and M.Y.Tanaka "Spontaneous Formation of a Plasma Hole in a Rotating Magnetized Plasma: A Giant Burgers Vortex in a Compressible Fluid", *Phys. Rev. Letters* Vol.**89**, No.7 pp.075001–1–075001–4 (12 Aug. 2002)
77. M.Y.Tanaka, K.Nagaoka, A.Okamoto, K.Hara,S.Yoshimura and M.Kono "Formation of Dissipative Vortex and Anomalous Viscosity in a Rotating Plasma", *Proc. 29th European Phys. Soc. Conf. on Plasma Phys. and Controlled Fusion*, P 4. 010 (June, 2002)
78. S.Yoshimura, K.Nagaoka, A.Okamoto, K.Hara, M.Kono, and M.Y.Tanaka "Potential Structure and Quasineutrality Breaking of Plasma Hole", *Proc. 29th European Phys. Soc. Conf. on Plasma Phys. and Controlled Fusion*, P 4. 012 (June, 2002)
79. R.Karasawa, N.Taji, T. Ohe and M.Kono "Computer Simulations on Growth and Saturation of Network Marketing Organizations", *Frontiers of Entrepreneurship Research 2001* (Babson College, July, 2002)
80. N. Taji, M. Kono and T. Ohe "Why Do Japanese Working in Network Organizations Show Such Strongly Entrepreneurial Behavior?" *Frontiers of Entrepreneurship Research 2001* (Babson College, July, 2002)
81. A. Okamoto, K. Hara, K. Nagaoka, S. Yoshimura, J. Vranjes, M. Kono and M. Y. Tanaka, "Neutral Density Profile Determines the Vorticity of Ion Flow in a Charge Exchange-dominated Plasma", *Journal of Plasma and Fusion Research*, **78** (2002) 1143–1144.
82. J. Vranjes, A. Okamoto, S. Yoshimura, S. Poedts, M. Kono, M. Y. Tanaka ; "Analytical description of a neutral-induced tripole vortex in a plasma", *Phys. Rev. Letters*, **89** (26) Art. No. 265002 (2002, Dec. 23)
83. J. Vranjes, M. Y. Tanaka and M. Kono "Electromagnetic Interchange Mode in a Nonuniform Mag-

- netic Field”, *21 st Summer School and International Symposium on the Physics of Ionized Gases* (Sokobanja, Yugoslavia, Aug. 2002)
84. J. Vranjes, M. Y. Tanaka, B. P. Pandey and M. Kono “Electrostatic interaction in a dusty plasma”, *21 st Summer School and International Symposium on the Physics of Ionized Gases* (Sokobanja, Yugoslavia, Aug. 2002)
 85. J. Vranjes, M. Y. Tanaka, M. Kono and S. Poedts “Interchange mode in the presence of dust”, *Phys. Rev. E* **67** (2) Art. No. 062410 Part 2 (2003, Feb)
 86. A. Okamoto, K. Hara, K. Nagaoka, S. Yoshimura, J. Vranjes, M. Kono and M. Y. Tanaka “Experimental observation of a tripolar vortex in a plasma”, *Physics of Plasma* Vol.10 No.6, pp.2211–2216 (2003 June)
 87. J. Vranjes, A. Okamoto, S. Yoshimura, S. Poedts, M. Kono, and M. Y. Tanaka, “Description of an experimental tripolar vortex”, *Cairo Conference on Plasma Physics and Applications*, Cairo, Egypt, Oct. 11–15, 2003.
 88. J. Vranjes, A. Okamoto, S. Yoshimura, S. Poedts, M. Kono, M. Y. Tanaka “Analytical description of a neutral-induced tripole vortex in a plasma”, *Phys. Rev. Letters* **89** (26) Art. No. 265002 (2002, Dec. 23)
 89. A. Okamoto, K. Nagaoka, S. Yoshimura, J. Vranjes, M. Kono, and M. Y. Tanaka, “Observation of anti-ExB tripolar vortex in a magnetized plasma”, *45th Annual Meeting of the APS Division of Plasma Physics*, Oct. 27–31, 2003, Albuquerque, New Mexico. (Bull. Am. Phys. Soc. **48** (2003) 70)
 90. J. Vranjes, M. Y. Tanaka, M. Kono, Poedts “Electrostatic perturbations in partially ionized plasma with the effects of ionization and recombination”, *Phys. Plasmas* **11** (9) 4188–4195 (2004, Sept.)
 91. M. Y. Tanaka, K. Nagaoka, A. Okamoto, S. Yoshimura, and M. Kono, DAKO 1 “Formation of Viscous-dissipative Vortex and Quasi-neutrality Breaking in a Magnetoplasma”, *Physica Scripta*, Vol. T **107** (2004) 40–53
 92. J. Vranjes, M. Y. Tanaka, M. Kono, and S. Poedts Comment on “Theory of vortex flows in partially ionized magnetoplasmas”, *Physics Letters, A* **329**, (2004) 162–164.
 93. M. Y. Tanaka, M. Kono, and J. Vranjes, “Dynamical Behavior of 2 D Viscous-Vortices and Formation of Vortex Crystals”, *12th International Congress on Plasma Physics*, Oct. 25–29, 2004, Nice, France.
 94. J. Vranjes, M. Y. Tanaka, M. Kono, and S. Poedts, “Waves in Partially Ionized Plasma with Inelastic Collisions”, *12th International Congress on Plasma Physics*, Oct. 25–29, 2004, Nice, France.
 95. A. Okamoto, K. Nagaoka, S. Yoshimura, J. Vranjes, M. Kono, S. Kado and M. Y. Tanaka, “Anti-ExB flow field associated with a vortex formation in a partially ionized plasma”, *12th International Congress on Plasma Physics*, Oct. 25–29, 2004, Nice, France.
 96. Masaki Tomochi, Hiroaki Murata, and Mitsuo Kono. “A consumer-based model of competitive diffusion: the multiplicative effects of global and local externalities”, *Journal of Evolutionary Economics* **15** pp.273–295 (2005)
 97. Atsushi Okamoto, Kennichi Nagaoka, Shinji Yoshimura, Jovo Vranjes, Shinichiro Kado, Mitsuo Kono, and Masayoshi Tanaka “Tripolar Vortex in a Plasma”, *IEEE Transactions on Plasma Science*, Vol. **33**, No. **2**, April pp.452–453 (2005)
 98. M. Y. Tanaka, K. Nagaoka, A. Okamoto, S. Yoshimura and M. Kono, “Plasma Hole”, *IEEE Transac-*

- tions on Plasma Science*, Vol.33, No.2, April pp. 454–455 (2005)
99. J. Vranjes, D. Petrovic, S. Poedts, M. Kono and V. M. Cadez, “Unstable kinetic Alfvén wave in partially ionized plasma”, *Planetary and Space Science* 54 (6) 641–644 (2006, May)
 100. J. Vranjes, M. Kono, D. Petrovic, S. Poedts, A. Okamoto, S. Yoshimura and M. Y. Tanaka, “The effects of inelastic collisions on waves in partially ionized plasma”, *Plasma Sources Science & Technology* 15 (2) S1–S7 (2006, May)
 101. J. Vranjes, M. Kono, S. Poedts, and M. Y. Tanaka, “Collisional energy transfer in two-component plasmas”, *Physics of Plasmas* 15, 092107 (2008)
 102. Rajkovic M., Skoric M.M., Kono M., A comparison of intermittency between neutral fluids and magnetically confined plasmas, 17th International Toki Conference–ITC/ISHW 2007 (2007)
 103. J. Vranjes, S. Poedts, M. Kono, M. Y. Tanaka, “Effects of friction on modes in collisional multicomponent plasmas”, *J. Physics : Conf. Series* 162, 012017, 1–10 (2009)
 104. Rajković M., Kono M., Kishimoto Y., Skorić M.M., Local multifractal characteristics of confined fusion plasma and neutral fluid turbulence, 25th SPIG, Milanovac, Serbia (2010)
 105. M. Kono, J. Vranjes and N. Batool, “Theory of waves in pair-ion plasmas: natural explanation of backward modes”, *Physics of Plasmas* 20, 122111 (2013)
 106. J. Vranjes and M. Kono, “On the Alfvén wave cut-off in partially ionized collisional plasmas”, *Physics of Plasmas* 21, 012110 (2014)
 107. J. Vranjes and M. Kono, “Resistive magneto-hydrodynamical cut-off of Alfvén wave in fully ionized plasmas”, *Physics of Plasmas* 21, 01451 (2014)
 108. M. Kono, J. Vranjes and N. Batool, “Electrostatic Ion Cyclotron and Ion Plasma Waves in a Symmetric Piar–Ion Plasma Cylinder”, *Physical Review Letters* 112, 105001 (2014)
 109. J. Vranjes and M. Kono, “Ion plasma wave and its instability in interpenetrating plasmas”, *Physics of Plasmas* 21, 042104 (2014)
 110. J. Vranjes and M. Kono, “Energy in density gradient”, *Physics of Plasmas* 22, Feb., 012105 (2015)

(和文)

1. 「プラズマ乱流と CLUMPS 理論」, 『核融合研究』, 50 巻, 6 号, 701 (1983)
2. 「不安定発展における非線形効果—秩序形成とカオス—」, 『核融合研究』, 60 巻, 1 号, 31 (1988)
3. 「プラズマにおける渦の形成とダイナミクス」, 『プラズマ若手夏の学校テキスト』 (1992)
4. 「プラズマと非線形波動」, 『数理科学』, 387, 17–22 (1995)
5. 「社会現象のモデリング：その方法と課題」, 『総合政策研究』, 1 号, 39 (1996)
6. 「シースに関連したカオス：周期倍分岐ルート」, 講座「プラズマにおけるカオス現象の観測と実験解析」『プラズマ・核融合学会誌』, 73 巻, 8 号 820–826 (1997)
7. 「プラズマにおける不安定性の非線形発展」, 『プラズマ・核融合学会誌』, 75 巻, 2 号 87–95 (1999)
8. 「回転する磁化プラズマ中のスパイラル渦」, 『プラズマ・核融合学会誌』, 77 巻, 4 号 348–354 (2001) (共著者 田中雅慶)
9. 「財普及現象のマルチエージェントシミュレーションとロジスティックモデルの微視的基礎」, 『総合政策研究』 7 号, 55 (2001) (共著者 柿沼 彰)

10. 「秩序の自発形成 —重層的意思決定の影響—」, 『総合政策研究』12号, 39 (2005) (共著者 友知政樹, 佐野健一)
11. 「社会規範形成のマイクロシミュレーション—歩行者の衝突回避行動と通行帯形成—」, 『総合政策研究』15号, 81 (2007) (共著者 佐野健一, 友知政樹)
12. 「歩行者の流れに関する解析的アプローチ」, 『総合政策研究』19号, 135 (2011) (共著者 佐野健一)
13. 「機会均等社会における富の偏在と適正化に関する確率過程モデル—パレートの法則の再考—」, 『総合政策研究』, 20号 1 (2012) (共著者 佐野健一, 友知政樹)
14. 「加算的・乗算的ランダムウォークと富の偏在」, 『総合政策研究』, 21号, 37 (2013) (共著者 友知政樹, 佐野健一)

畠中誠二郎教授 略歴および主要業績目録

1. 生年月日 1944年5月2日

2. 学歴及び職歴

1. 学歴

1969年3月 京都大学法学部卒

2. 職歴

1970年4月 行政管理庁入庁

1973年7月 大蔵省銀行局保険部保険第一課調査係長

1975年7月 行政管理庁行政監察局調整課管理係長，企画係長

1978年3月 人事院事務官に併任（アメリカ合衆国へ短期在外研修のため，1978年10月まで）

1978年10月 行政管理庁行政監察局副監察官

1979年7月 同 行政管理局副管理官

1981年9月 外務事務官に併任（外務研修所にて研修）

1982年4月 在連合王国日本国大使館一等書記官

1985年4月 総務庁行政管理局調査官

1985年7月 同 国際企画官

1987年7月 同 管理官

1989年7月 同 人事局参事官

1991年7月 同 長官官房参事官

1992年7月 同 行政管理局管理官

1994年7月 同 企画調整課長

1995年6月 同 長官官房総務課長

1996年7月 同 中部管区行政監察局長

1997年1月 内閣審議官（金融監督庁設立準備室主幹）

1998年7月 総務庁長官官房審議官（行政監察局担当）

2000年8月 同（行政管理局担当）

2001年1月 総務省大臣官房総括審議官

2002年1月 同 大臣官房長

2003年1月 同 自治行政局長

2004年7月 同 行政管理局長

2005年1月 同 総務審議官

2005年8月（社）行政情報システム研究所理事長

2006年4月 中央大学総合政策学部・大学院総合政策研究科客員教授

2007年4月 中央大学総合政策学部教授



賞 罰

2014年11月 瑞宝重光章 受章

3. 兼職歴及び学会役員等

(審議会等)

2007年2月～2013年1月 内閣府男女共同参画会議専門委員

2007年10月～ 東村山市行財政改革審議会会長

2013年2月～ 行政改革推進会議有識者議員

(検討会等)

休暇村のあり方検討会 (2007年 財団法人休暇村協会)

独立行政法人における内部統制と評価に関する研究会 (2009年 総務省)

地震保険制度に関するプロジェクトチーム (2011～2014年 財務省)

国家公務員宿舎の削減のあり方についての検討会 (2011年 財務省)

国民生活センターの国への移行を踏まえた消費者行政の体制の在り方に関する検討会 (2012年 消費者庁)

森林保険制度に関する検討会 (2012年 林野庁)

独立行政法人改革等に関する分科会 (2013年 内閣官房)

日本学術会議の新たな展望を考える有識者会議 (2014年 日本学術会議)

(民間団体等)

2008年3月～2012年6月 (財)休暇村協会評議員 (非常勤)

2009年7月～2013年9月 (社)行政情報システム研究所理事長 (非常勤)

2013年6月～ (財)行政書士試験研究センター評議員 (非常勤)

4. 論文等

1. 「公務員あれこれ」中央大学父母連絡会『草のみどり』第210号 2007年11月
2. 「行政改革における実験と実践―橋本行革(省庁再編等)を中心として」『新たな「政策と文化の融合」総合政策の挑戦』(中央大学総合政策学部編)中央大学出版部, 2009年
3. “Continuity and Change in Administrative Reform in Japan” ‘Introducing the Faculty of Policy Studies’ 中央大学総合政策学部, 2010年

(中央大学総合政策学部就任前の主な研究業績)

1. 「米国1978年監察総監法」(翻訳), 行政管理庁行政監察局, 1982年3月
2. 「行政機関における個人情報保護対策の在り方について」, 『季刊 行政管理研究No.37』, ((財)行政管理研究センター刊行), 1987年3月
3. 「個人情報保護対策海外調査報告書」(共著), 総務庁行政管理局, 1988年3月, 10月
4. 「逐条解説個人情報保護法」(共著), 第一法規, 1989年3月
5. 「個人情報保護法の成立の意義(一)～(四)」, 『自治研究』, 第65巻第5,6,8,9号, (良書普及会刊行), 1989年5月～9月
6. 「Government measures aimed at protecting personal data – Personal Data Protection Act and the

- significance of its enactment -], 『Japan Computer Quarterly』 No. 78, ((財)日本情報処理開発協会刊行), 1989年9月
7. 「個人情報保護法—立法化の意義と法律の内容—」山梨県総務部文書法制課, 1989年6月
 8. 「行政官レポート 規制緩和の現状について」(英語訳あり), 『月刊金融ジャーナル』(金融ジャーナル社), 1994年2月
 9. 「規制緩和の概観」, 『ジュリスト』, No. 1044, (有斐閣刊行), 1994年5月
 10. 「諸外国の政策評価制度の概要 (2)」(共著), 総務省行政評価局, 2002年3月
 11. 「地方自治雑感」, 『地方自治』, No. 674 ((株)ぎょうせい刊行), 2004年1月

Curriculum Vitae of Prof. Hiroaki HAYAKAWA

EDUCATION AND DEGREES

B.A. San Diego State University, 1970, Economics, Mathematics

Ph. D. University of Michigan, 1974, Economics

SPECIALIZATION

Fields of Research Interest :

Microeconomic Theory, Macroeconomic Theory, Game Theory,
Macrodynamics and Recursive Methods, Monetary Theory,
Mathematical Economics, Economics and Sociology, Institutional
Economics, Economics and Philosophy (Ethics and Phenomenology)

Fields of Teaching Interest :

Microeconomic Theory, Macroeconomic Theory, Game Theory,
Macrodynamics and Recurve Methods, Mathematical Economics,
Principles of Economics (Macro & Micro), Ethical Foundation of
Socio-economic Order, Phenomenology and Economics (Aristotle,
Kant, Husserl, Heidegger, and Economic Sciences).

PREVIOUS AND CURRENT EMPLOYMENT

Assistant Professor, San Diego State University, 1974–75

Assistant Professor, University of Georgia, 1975–79

Associate Professor, Nanzan University, 1979–80

Associate Professor, University of Georgia, 1979–1986

Full Professor, University of Georgia, 1986–88

Full Professor, Nagoya Gakuin University, 1986–92

Full Professor, Ritsumeikan University, 1992–1994

Full Professor, Chubu University, 1994–1998

Full Professor, University of Tsukuba, 1998–2000

Joint Appointment, Full Professor, The Institute of Economic Research,
Kyoto University, 1998–1999

Full Professor, Tezukayama University, 2000–2002

Full Professor, Chuo University, 2002–2015

OTHER ADJUNCT or VISITING APPOINTMENTS (Teaching/Research)

Nagoya City University, 1987, 1997



Sapporo University, 1991, 1993
 Kyoto University, 1994, The Institute of Economic Research
 Ritsumeikan University, 1994
 Okayama University, 1995
 Nagoya University, 1988, 1996, 1997
 Nanyang Technological University, Singapore, 2014

VISITING PROFESSORSHIP

Visiting Professor, University of Oregon, Fall 1989
 Visiting Professor, University of Washington, Fall 1989
 Visiting Professor, London School of Economics, January 1990
 Visiting Professor, Free University, Berlin, February 1990
 Visiting Professor, Goethe University, Frankfurt, March 1990
 Visiting Professor, Stockholm University, April 1990
 Visiting Professor, Nanyang Technological University, February–April 2014

PUBLICATIONS

- Hayakawa, H., Three Essays on Interdependence in Consumer Choice, Microfilm, University of Michigan, August 1974 (Ph D dissertation).
- Hayakawa, H., "Consumer Theory When Prices and Real Income Affect Preferences," *Southern Economic Journal* 43 (July 1976), pp. 840–845.
- Hayakawa, H., "Preference Ordering under a Pigovian Emulative System," *Atlantic Economic Journal* 4 (Fall 1976), pp. 17–24.
- Hayakawa, H. and Y. P. Venieris, "Consumer Interdependence via Reference Groups," *Journal of Political Economy* 85 (June 1977), pp. 599–615.
- Delorme, C. D. and H. Hayakawa, "The Specification of the Demand for Money and the Built-in Flexibility of Taxation," *Public Finance/Finances Publiques* 32 (no. 1, 1977), pp. 17–52.
- Hayakawa, H., "Lexicographic Preferences and Consumer Theory," *Journal of Behavioral Economics* 7 (Summer 1978), pp. 17–52.
- Hayakawa, H., "Real Purchasing Power in the Neoclassical Monetary Growth Model," *Journal of Macroeconomics* 1 (Winter 1979), pp. 19–31.
- Hayakawa, H., "Growth with Money under Generalized Liquidity Preferences, Part I," *Academia* 64 (September 1979), pp. 1–31.
- Hayakawa, H., "Growth with Money under Generalized Liquidity Preferences, Part II," *Academia* 65 (December 1979), pp. 1–25.
- Hayakawa, H., "Classical Constrained Maximization and Generalized Consumer Theory," *Academia* 66 (March 1980), pp. 1–18.
- Hayakawa, H., "A Consumer Choice Process under Limiting Conditions: A Socio-Economic Approach," *Academia* 67 (June 1980), pp. 29–70.
- Hayakawa, H., "Effects of Advertising on Consumer Preferences Generated by Hierarchy of Satiabile

- Wants: A Note," *Academia* 67 (June 1980), pp. 123–131.
- Hayakawa, H., "Stock Adjustment of Assets, Inside Money, and Conservation Principles in Growth with Money," *Academia* 68 (September 1980), pp. 37–61. Presented at Western Economic Conference, July 1981.
- Hayakawa, H. and T. Iida, "The Keynesian Proposition and a Simple 'Medium-Run' Dynamic Analysis: A Note," *Academia* 69 (December 1980), pp. 10–16.
- Hayakawa, H., "Foundations of Consumer Theory: A Survey," *Academia* 71 (June 1981), pp. 97–130.
- Hayakawa, H., "Infante and Stein's Crowding-Out Propositions: A Reexamination," *Academia* 73 (September 1981), pp. 1–14.
- Hayakawa, H. and T. Iida, "Flow Equilibrium in the Neoclassical Monetary Growth Model," *Academia* 73 (March 1982), pp. 11–32.
- Hayakawa, H., "Conservation Principles and an Alternative Formulation of a Continuous Time Macro Model," *Economic Studies Quarterly* 33 (August 1982), pp. 111–125.
- Hayakawa, H., "Flow Equilibrium Specification of Asset Market and Transactions Theory of Demand for Money," *Economics Letters* 11 (1983), pp. 49–55.
- Hayakawa, H., "Rationality of Liquidity Preferences and the Neoclassical Monetary Growth Model," *Journal of Macroeconomics* 5 (Fall 1983), pp. 495–501.
- Hayakawa, H., "Balance Sheet Identity and Walras' Law," *Journal of Economic Theory* 34 (October 1984), pp. 187–202.
- Hayakawa, H., "A Dynamic Generalization of the Tobin Model," *Journal of Economic Dynamics and Control* 7 (September 1984), pp. 209–231.
- Hayakawa, H., "Intertemporal Optimization and Neutrality of Money in Growth Models," *Journal of Monetary Economics* 18 (September 1986), pp. 323–328.
- Hayakawa, H., "The Efficacy of Debt-Financed Fiscal Policy in a Continuous Time Macro Model consistent with Conservation Laws," *The Nagoya Gakuin University Review* 23 (October 1987), pp. 51–84. Presented at the Annual Meeting of the Japan Economic Policy Association, Hiroshima, 1987.
- Hayakawa, H., "Intertemporal Optimization and Neutrality of Money in Growth Models: A Synthesis of the Neoclassical and the Keynes-Wicksellian Approaches," *The Nagoya Gakuin University Review* 24 (January 1988), pp. 79–108. Presented at the Meeting of the Japan Association of Economics and Econometrics, Tokyo, 1987.
- Hayakawa, H., "Balance Sheet Identity and Transactions Theory of Liquidity Preferences in Continuous Time," *The Nagoya Gakuin University Review* 24 (July 1988), pp. 117–130.
- Hayakawa, H., "Price Structure Information, Ex-ante Rational Expectations, and Policy Neutrality: An Optimization Approach," *Journal of Macroeconomics* 10 (Fall 1988), pp. 497–514.
- Hayakawa, H., "Ingredient Inputs, Value-Added, and Firm's Behavior: A Reformulation of the Neoclassical Theory of Cost and Production," *The Nagoya Gakuin University Review* 25 (January 1989), pp. 1–41.
- Hayakawa, H., "Superneutrality of Money When Price Dynamics Is Incorporated Ex-ante into Intertemporal Rationality," *The Nagoya Gakuin University Review* 25 (April 1989), pp. 37–60.
- Hayakawa, H., "Interaction of a Cash-in-Advance Restraint with Variable Time Preferences, Demand for Real Balances, and Superneutrality of Money," *The Nagoya Gakuin University Review* 26 (January 1990),

pp. 63–107.

- Hayakawa, H., “End-of-Period and Beginning-of-Period Specifications of Asset Equilibrium and Balance Sheet Identity,” *Economic Studies Quarterly* 41 (December 1990), pp. 300–316.
- Hayakawa, H., “On the Rate of Time Preference under Recursive Preferences,” *Economics Letters* 36 (August 1991), pp. 347–354.
- Hayakawa, H., “The Non-Neutrality of Money and the Optimal Monetary Growth Rule When Preferences Are Recursive: Cash-in-Advance vs. Money in The Utility Function,” *Journal of Macroeconomics* 14 (Spring 1992), pp. 233–266.
- Hayakawa, H. and S. Ishizawa, “On the Role of Generating Functions When Preferences Are Recursive,” *Economics Letters* 41 (1993), pp. 41–45.
- Hayakawa, H., “Time Cost of Transactions and the Superneutrality of Money: A Reformulation of the Stockman-Abel Cash-in-Advance Model under Recursive Preferences,” *Economic Studies Quarterly* 45 (March 1994), pp. 14–31.
- Hayakawa, H. and S. Ishizawa, “The Optimal Consumption-Wealth Relation and the Permanent Income-Life Cycle Hypothesis under Recursive Preferences,” *Economics Letters* 46 (1994), pp. 41–48.
- Hayakawa, H., “The Complete Complementarity of Consumption and Real Balances and the Strong Superneutrality of Money,” *Economics Letters* 48 (1995), pp. 91–97.
- Hayakawa, H. and S. Ishizawa, “The Fundamentals of Intertemporal Optimization in the Continuous Time Modeling of Consumer Behavior,” *Japanese Economic Review* 48 (March 1997), pp. 101–112.
- Hayakawa, H., “Bounded rationality, social and cultural norms, and interdependence via reference groups,” *Journal of Economic Behavior and Organization* 43 (August 2000): 1–34.
- Hayakawa, H., “The Neutrality of Money under Recursive Preferences: The Case of Transaction Services of Money in the Utility Function and Three Macro-Monetary Issues,” *Tezukayama Academic Review* 7 (December 2000), pp. 41–62.
- Hayakawa, H., “Recursive Preferences and Smoothing of Consumption, Real Balances, and Composite Consumption under Money in the Utility Function,” *Tezukayama Journal of Economics and Business* 11 (March 2001).
- Hayakawa, H., “The Permanent Income-Life Cycle Hypothesis in a Monetary Economy and the Neutrality of Money: A Continuous Time Analysis,” *Japanese Economic Review* 52 (March 2001), pp. 77–92.
- Hayakawa, H., “Money, Wealth, and the Superneutrality of Money under Intertemporal Arbitraging,” *Journal of Policy and Culture* 10 (July 2003), pp. 23–33.
- Hayakawa, H., “On the Universality of the Permanent Income-Life Cycle Hypothesis in the Long-run,” *Journal of Policy and Culture* 10 (July 2003), pp. 15–21.
- Hayakawa, H., “Intertemporal Optimization under Recursive Preferences and the Efficacy of Fiscal Policy,” *Journal of Policy and Culture* 11 (August 2004), pp. 19–28.
- Hayakawa, H., “The Preference Homotheticity in the Permanent Income-Life Cycle Hypothesis and the Random Walk of Consumption,” *Journal of Policy and Culture* 11 (August 2004), pp. 1–18.
- Hayakawa, H., “The Equi-marginal Principle: Carl Menger’s Insight Revisited,” *Journal of Policy and Culture* 12 (March 2005), pp. 135–152.
- Hayakawa, H., “Strategic Complementarities in Human Existence under Moral, Social, and Economic Rela-

- tions," *Journal of Policy and Culture* 13 (March 2006), pp. 113–146 (in Japanese).
- Hayakawa, H., "Strategic Complementarities in Human Existence under Moral, Social, and Economic Relations: A Supplement—The Cooper–John Model," *Journal of Policy and Culture* 13 (March 2006), pp. 147–169 (in Japanese).
- Hayakawa, H., "Thorstein Veblen's Theory of Leisure Class and Adam Smith's Theory of Moral Sentiments through the Eyes of Parsons' Institutionalization of Normative Values," *Journal of Policy and Culture* 15 (March 2007), pp. 1–34.
- Hayakawa, H., "Ethics and Morality: Merits and Demerits of Modern Utility Theory and the First Principle of the Life of Actions," *Journal of Policy and Culture* 17 (February 2009), pp. 7–32 (in Japanese).
- Hayakawa, H., "Ethics and Morality: The Ultimate Good of the Life of Actions and Moral Goodness," *Journal of Policy and Culture* 17 (February 2009), pp. 33–56 (in Japanese).
- Hayakawa, H., "Phronesis in Aristotle's Ethics and the Revolution That Has Taken Place in Economics Since the 1960s," in *New Integration of Policy Sciences and Cultural Studies*, edited by The Faculty of Policy Studies, Tokyo, Japan: Chuo University Press, 2009.
- Hayakawa, H., "Ethics and Morality: Virtues of Character, Voluntary Actions, Choice, and Virtuous Activities," *Journal of Policy and Culture* 18 (March 2010), pp. 1–31 (in Japanese).
- Hayakawa, H., "Ethics and Morality: Virtues of Intellect, Virtuous Activities, and Contemplation: From Potency and Actuality," *Journal of Policy and Culture* 18 (March 2010), pp. 33–68 (in Japanese).
- Hayakawa, H., "Spontaneous Nature of Human Being, Duty of Self–Perfection, Self and Society, Integrative Practical Knowledge, and Absolute Faith in One's Potential: A Discourse on Policy Studies Based on the Causality of Human Existence," *Journal of Policy and Culture* 19 (March 2011), pp. 205–232 (in Japanese).
- Hayakawa, H., "Institutional Theories as an Integrated Approach to the Phenomenology of a Socio–Economic and Cultural Order: Bourdieu, Veblen, Adam Smith, and Parsons," in *Introducing the Faculty of Policy Studies: Integrating Policy and Culture*, Tokyo, Japan: Maruzen, November 2010, pp. 251–263.
- Hayakawa, H., "The Ethical Nature of Human Existence and the Economic Form of Human Actions: Economics Returning to the Ethicality of Human Being in Recent Years," *Journal of Policy and Culture* 19 (March 2011), pp. 59–111 (in Japanese).
- Hayakawa, H., "Institutionalization of Common Normative Values and Economics of Limited Cognition in Search for a Middle Ground between Economics and Sociology: Theories of Veblen, Adam Smith, Bourdieu, and Parsons," paper presented at the Multidisciplinary Decision Science Symposium, August 2010, Singapore, published in *Journal of Policy and Culture* 20 (March 2012), pp. 1–57.
- Hayakawa, H., "Socio–economic Order and the Spontaneity of Human Existence: Kant's Moral Philosophy and Aristotle's Ethics and Metaphysics in Search for the Moral and Ethical Cause of a Socio–economic Order," *Journal of Policy and Culture* 20 (March 2012), pp. 65–115 (in Japanese).
- Hayakawa, H., "Consumption and Production as Virtues in Cultural Evolution: Institutionalization and Transcendence," *Chuo Journal of Policy Sciences and Cultural Studies* 21 (March 2013), pp. 149–183.
- Hayakawa, H., "Lucas' Contributions to the Economic Sciences from a Historical Perspective: How Lucas Revolutionized Economists' Way of Thinking about Decision Making Modes of Intertemporally Motivated Rational Agents," *Chuo Journal of Policy Sciences and Cultural Studies* 22, March 2014.

- Hayakawa, H., Consumer Interdependence via Reference Group, with an addendum: Afterthought, the original paper published in *Journal of Political Economy* 85 (June 1977), pp. 599–615, with Yiannis P. Venieris). Forthcoming in Ikeda, S. et al., *Behavioral Interactions, Markets, and Economic Dynamics: Topics in Behavioral Economics*, Springer, 2015.
- Hayakawa, H., Bounded Rationality, Social and Cultural Norms, and Interdependence via Reference Groups, with an addendum: Afterthought and Possible Extensions, the original paper published in *Journal of Economic Behavior and Organization* 43 (August 2000): 1–34. Forthcoming in Ikeda, S. et al., *Behavioral Interactions, Markets, and Economic Dynamics: Topics in Behavioral Economics*, Springer, 2015.
- Hayakawa, H., The Tragedy of the Commons: The Dynamic Adjustment under Unregulated Population Growth, *Chuo Journal of Policy Sciences and Cultural Studies* 23 (March 2015).

WORKING/DISCUSSION PAPERS AND OTHERS

(including papers presented at professional conferences and seminars)

- Hayakawa, H., “Mr. Q, a Resident of an Imperfect World and a Social Satisficer,” unpublished manuscript, University of Michigan, 1973. Presented at San Diego State University, 1974.
- Hayakawa, H. and Y. P. Venieris, “Life Style: A Hypothesis on Consumer Behavior,” San Diego State University, October 1974.
- Venieris, Y. P. and H. Hayakawa, “Protestant Ethics, Social Ethics, and the Theory of Consumer Behavior,” unpublished manuscript, San Diego State University, May 1974.
- Hayakawa, H., “Bounded Rationality and Impacts of Reference Groups upon Consumer Preferences and Choice,” University of Georgia, July 1975.
- Hayakawa, H., “Price Changes in a Full Employment Two–Sector Neoclassical Model,” University of Georgia, January 1976. Presented at Atlantic Economic Conference, September 1995.
- Hayakawa, H., “Fundamental Equations of Comparative Statics and Generalized Consumer Theory” presented at Western Economic Conference, July 1977.
- Hayakawa, H., “Conservation Laws and an Alternative Formulation of a Continuous Time Macro Model,” University of Georgia, November 1980. Presented at Western Economic Conference, July 1981.
- Hayakawa, H., “Flow Equilibrium as an Alternative Specification of Instantaneous Equilibrium of a Consistent Continuous Time Macro Model, and Debt Financed Fiscal Policy,” University of Georgia, May 1982. Presented at Western Economic Conference, July 1983.
- Hayakawa, H., “Flow Equilibrium of Money, Price Dynamics, and Neoclassical Monetary Growth,” CBA Working Paper No. 83–138, University of Georgia, 1983.
- Hayakawa, H., “Portfolio Imbalance and Two Specifications of Asset Equilibrium in Macroeconomic Models,” CBA Working Paper No. 83–140, University of Georgia, 1983. Revised version, CBA–WP No. 85–181 E, 1985.
- Hayakawa, H., “The Conservation Laws and Consistency among Specifications of Consumption, Saving, and Asset Demand Functions,” CBA Working Paper No. 83–141, University of Georgia, 1983.
- Hayakawa, H., “The Household Budget Constraint and Consistency among Specifications of Consumption, Saving, and Asset Demand Functions,” University of Georgia, October 1982. Presented at Western Eco-

conomic Conference, July 1983.

Hayakawa, H., "Intertemporal Optimization and Neutrality of Money in Growth Models," CBA Working Paper No. 84-157 E, University of Georgia, 1984. Revised version, CBA-WP No. 85-182 E, 1985.

Hayakawa, H., "On the Consistency with the Transactions Theory of the Demand for Money in the Continuous Time," CBA Working Paper No. 84-158 E, University of Georgia, 1984.

Hayakawa, H., "Rational Expectations, Price Dynamics and Nonneutrality of Money under Intertemporal Optimization," CBA Working Paper No. 84-160 E, University of Georgia, 1984.

Hayakawa, H., "The Policy Neutrality and the Existence of Rational Expectations in a Generic Aggregate Demand-Aggregate Supply Model," CBA Working Paper No. 85-184 E, University of Georgia, 1985.

Hayakawa, H., "Parametric vs. Non-Parametric Rational Expectations, Price Structure Information, and Policy Neutrality: An Optimization Approach," IIS Discussion Paper No. 7, Nagoya Gakuin University, October 1986.

Hayakawa, H., "Portfolio Imbalance, Planning Horizon, and Perfect Foresight in Two Alternative Specifications of Asset Market Equilibrium and Walras' Law," IIS Discussion Paper No. 9, Nagoya Gakuin University, January 1987. Presented at the Far Eastern Meeting of the Econometric Society, Tokyo, Japan, 1987.

Hayakawa, H., "On the Foundation of the Neoclassical Theory of Cost and Production: An Alternative Approach with Ingredient Inputs and a Value-Added Function," IIS Discussion Paper No. 11, Nagoya Gakuin University, August 1988.

Hayakawa, H., "A Cash-in-Advance Constraint, Variable Time Preferences, and Superneutrality of Money." Presented at the Far Eastern Meeting of the Econometric Society, Kyoto, Japan, June 1989.

Hayakawa, H., "The Effect of Anticipated Inflation on Capital Accumulation and the Superneutrality of Money." Presented at Western Economic Association International Conference, Lake Tahoe, Nevada, July 1989.

Hayakawa, H., "Portfolio Adjustment Costs, Planning Horizon, and Expectations in Two Alternative Specifications of Asset Equilibrium and Balance Sheet Identity," presented at European Economic Conference, Augsburg, Germany, September 1989.

Hayakawa, H., "On the Non-irrelevance of the Cardinality of Utility Measure in Intertemporal Optimization." Presented at University of Oregon, October 1989.

Hayakawa, H., "Real Accumulation When a Cash-in-Advance Constraint Interacts with Variable Time Preferences under Leisure-Transaction Cost Tradeoffs." Presented at Free University, Berlin, February 1990.

Hayakawa, H., "Money, Real Accumulation, and Optimal Monetary Growth." Presented at Johann Wolfgang Goethe University, March 1990.

Hayakawa, H., "Optimal Monetary Growth under Recursive Time Preferences: Utility vs. Cash-in-Advance Constraint," IIS Discussion Paper No. 15, Nagoya Gakuin University, December 1990.

Hayakawa, H., "The Homotheticity of Recursive Time Preferences and the Modigliani-Brumberg-Friedman Permanent Income-Life Cycle Hypothesis." Presented at the European Meeting of the Econometric Society, Cambridge England, September 1991.

Hayakawa, H., "The Path-Dependence of the Boehm-Bawerkian and the Fisherian Rates of Time Prefer-

- ence When Preferences Are Recursive." Presented at the European Economic Association Meeting, Cambridge, England, September 1991.
- Hayakawa, H., "The Neutrality of Money and the Optimal Monetary Growth Rule When Preferences Are Recursive: Cash-in-Advance vs. Money in the Utility Function," Nagoya Gakuin University, April 1991.
- Hayakawa, H., "On the Equivalence between Cash-in-Advance and Money in the Utility Function under Leisure-Transaction Time Tradeoffs," Nagoya Gakuin University, June 1991.
- Hayakawa, H. and S. Ishizawa, "On the Exact Specification of a Recursive Utility Functional: In Defense of Uzawa's Insight," Ritsumeikan University, 1993.
- Revision "Uzawa's Insight in Specifying Recursive Utility Functionals: A Note," Spring 1996.
- Hayakawa, H. "The Homotheticity of the Uzawa-Epstein Recursive Preferences and the Modigliani-Brumberg-Friedman Permanent Income-Life Cycle Hypothesis: An Integration and a Clarification in Continuous Time," Ritsumeikan University, 1993.
- Hayakawa, H., "The Additivity of Utility and the Neutrality of Money," Ritsumeikan University, Fall 1993.
- Hayakawa, H., "Money and Wealth in the Representative Agent Model: An Old Theme from a New Perspective," Ritsumeikan University, Winter 1994. Supported by a grant-in-aid from the Zengin Foundation, 1993.
- Hayakawa, H., "Smoothing-out under Recursive Preferences," Ritsumeikan University." Presented at the Research Institute for Economics and Business Administration, Kobe University, July 1994.
- Hayakawa, H., "Intertemporal Optimization under Recursive Preferences and the Fiscal Policy Ineffectiveness: An Extension of the Insight of the Permanent Income-Life Cycle Hypothesis," Ritsumeikan University, Fall 1994. Supported by a grant-in-aid from the Zengin Foundation, 1993.
- Hayakawa, H., "The Permanent Income-Life Cycle Hypothesis in a Monetary Economy and the Neutrality of Money," Ritsumeikan University, Spring 1994. Presented at the Institute of Economic Research, Kyoto University, July 1994. A refined version presented at the 7th World Congress of the Econometric Society, Tokyo, Japan, August 1995.
- Hayakawa, H., "The Homotheticity of Separable Recursive Preferences and the Random Walk of Consumption." Presented at the 70th Annual Conference of the Western Economic Association International, San Diego, California, July 1995. Also presented at the Institute of Social and Economic Research, Osaka University, July 1995.
- Hayakawa, H., "On the Universality of the Permanent Income-Life Cycle Hypothesis in the Long-run: A Note," Chubu University, Spring 1996.
- Hayakawa, H., "Consumer Behavior in a Monetary Economy and Smoothing of Composite Consumption," Chubu University, Spring 1996.
- Hayakawa, H., "Recursive Preferences and Smoothing of Consumption in a Monetary Economy." Presented at the Institute of Economic Research, Kyoto University, August 1996 and at the TCER Seminar, Department of Economics, University of Tokyo, October 1996.
- Hayakawa, H., "Transaction Services in the Utility Function and the Hyperneutrality of Money." Presented at Nagoya City University, March 1997.
- Hayakawa, H., "Life-Styles as Social Capital and Social Want: A Model of Consumer Choice under Inter-

dependence via Reference Groups.” Presented at Osaka University, June 1997. Also, presented at Tezukayama University, fall 1997.

Hayakawa, H., “A Scio–Economic Theory of Consumer Choices : Interdependence via Reference Groups.” Presented at the 72 nd Annual Conference of the Western Economic Association International, Seattle, 1997.

Hayakawa, H., “Recursive Preferences and Consumer Behavior in a Monetary Economy.” Presented at Tsukuba University, July 1997.

Hayakawa, H., “Bounded Rationality, Social and Cultural Norms, and Interdependence via Reference Groups.” Tsukuba University, November 1998. Presented at the Institute of Economic Research, Kyoto University, December 1998.

Hayakawa, H., “The Neutrality of Money under Recursive Preferences.” Presented at the 74 th Annual Conference of the Western Economic Association International, San Diego, California, July 1999.

BOOK REVIEWS

Pickering, J. S., *The Acquisition of Consumer Durables: A Cross–Sectional Investigation*. New York : John Wiley and Sons, 1977. *Southern Economic Journal*, October 1978.

Scarth, B. L., *Cycles, Growth and Inflation: A Survey of Contemporary Macroeconomics*. New York : McGraw–Hill, 1977. *Journal of Macroeconomics* (Summer 1979).

Mario Arturo Ruiz Estrada, Review of *An Introduction to Econographicology*, *Singapore Economic Review* 57 (December 2012), 1280014–1–1280014–4.

PAPERS AND NOTES WRITTEN AS EXPLANATORY/LECTURE

NOTES FOR COURSES TAUGHT

Hayakawa, H., *Rational Expectations Equilibrium Modeling: A Detailed Exposition Based on Thomas Sargent’s *Macroeconomic Theory**, January 1987.

Hayakawa, H., *Explanatory Notes on Chapter XII: The Consumption Function, Thomas J. Sargent’s *Macroeconomic Theory**, April 1992.

Hayakawa, H., *Stochastic Properties of Consumption under Rational Expectations: Hall’s Random Walk Hypothesis*, May 1992.

Hayakawa, H., *Explanatory Notes on Chapter 1: Dynamic Programming, Thomas Sargent’s *Dynamic Macroeconomic Theory**, January 1994.

Hayakawa, H., *Explanatory Notes on Chapter 2: Search, Thomas Sargent’s *Dynamic Macroeconomic Theory**, February 1994.

Hayakawa, H., *Lecture Notes on Robert Lucas’ 1972 JET Paper, “Expectations and the Neutrality of Money,”* January 1996.

Hayakawa, H., *Lecture Notes on Robert Lucas’ 1976 paper, “Econometric Policy Evaluation: A Critique,”* February 1996.

Hayakawa, H., *Lecture Notes on George A. Akerlof and Janet L. Yellen’s 1985 QJE Paper, “A Near-Rational Model of the Business Cycle, with Wage and Price Inertia,”* March 1996.

Hayakawa, H., *Lecture Notes on Akerlof and Janet L. Yellen’s 1985 AER Paper, “Can Small Deviations*

- from Rationality Make Significant Differences to Economic Equilibria?, March 1996.
- Hayakawa, H., Impact of Technological Innovations on the Aggregate Production Function : How Much of Output Growth Can be Attributed to Technological Changes, April 1996.
- Hayakawa, H., Lecture Notes on Finn E. Kydland and Edward C. Prescott's 1982 Econometric Paper, "Time to Build and Aggregate Fluctuations", April 1996.
- Hayakawa, H., Lecture Notes on Bennet T. McCallum's 1989 paper, "Real Business Cycle Models, May 1996.
- Hayakawa, H., Lecture Notes on Carl Shapiro and Joseph Stiglitz's AER Paper, "Equilibrium Unemployment as a Worker Discipline Device", June 1996.
- Hayakawa, H., Macroeconomic Theory, January 1997. This is a comprehensive text containing 23 chapters dealing with many important subjects of macroeconomics.
- Hayakawa, H., Explanatory Notes on Chapter 2 : An Overview, Nancy L. Stokey and Robert E. Lucas, Jr., *Recursive Methods in Economic Dynamics*, January 1997.
- Hayakawa, H., Explanatory Notes on Chapter 3 : Mathematical Preliminaries, Nancy L. Stokey and Robert E. Lucas, Jr., *Recursive Methods in Economic Dynamics*, February 1997.
- Hayakawa, H., Appendix to Mathematical Preliminaries, March 1997.
- Hayakawa, H., Explanatory Notes on Chapter 4 : Dynamic Programming under Certainty, Nancy L. Stokey and Robert E. Lucas, Jr., *Recursive Methods in Economic Dynamics*, March 1997, 38 pages. A Summary of Chapter 4.
- Hayakawa, H., A Bird's-Eye View of Dynamic Programming : An Introduction to Nancy L. Stokey and Robert E. Lucas, Jr., *Dynamic Macroeconomic Theory*, April 1997.
- Hayakawa, H., The Evolution of Modern Macroeconomics Since 1960s, August 1997.
- Hayakawa, H., Lecture Notes on Charles I. Plosser's 1989 paper, "Understanding Real Business Cycles, August 1997.
- Hayakawa, H., Lecture Notes on Joseph E. Stiglitz and Andrew Weiss's 1981 AER paper, "Credit Rationing in Markets with Imperfect Information," September 1997.
- Hayakawa, H., Lecture Notes on Thomas F. Cooley and Edward C. Prescott's 1995 Paper, "Economic Growth and Business Cycles," October 1997.
- Hayakawa, H., Lecture Notes on Robert Barro's 1974 JPE Paper, "Are Government Bonds Net Wealth, November 1997.
- Hayakawa, H., Lecture Notes on Peter A. Diamond's 1982 JPE Paper, "Aggregate-Demand Management in Search Equilibrium, January 1998.
- Hayakawa, H., Lecture Notes on Joaquim Silverstre's JEL 1993 paper, "The Market-Power Foundations of Macroeconomic Policy," February 1998.
- Hayakawa, H., Lecture Notes on Thomas J. Sargent's *Dynamic Macroeconomic Theory*, Chapter 3 : Asset Prices and Consumption, April 1998.
- Hayakawa, H., Lecture Notes on Robert E. Lucas, Jr. and Edward C. Prescott's 1974 JET Paper, "Equilibrium Search and Unemployment, May 1998.
- Hayakawa, H., The Role of Information in the Financial Market, October 2003.
- Hayakawa, H., Lecture Notes on "Coordinating Coordination Failures in Keynesian Models" (Russell Co-

- per and Andrew John, QJE 1988), October 2003.
- Hayakawa, H., An Exposition of Peter Diamond's Model of Aggregate Demand Management in Search Equilibrium, October 2003.
- Hayakawa, H., An Exposition of Robert Lucas's Paper, "Econometric Policy Evaluation : A Critique," November 2003.
- Hayakawa, H., Ex-ante and Ex-post, Theory and Model, and Comparative Statics, March 2004.
- Hayakawa, H., Game Theory : A Simple Exposition, Part I : Prisoners' Dilemma, Part II : The Cournot Model of Duopoly, Part III : The Bertrand Model of Duopoly, Part IV : Dynamic Games of Complete and Perfect Information, January 2005 (written in Japanese).
- Hayakawa, H., The Fundamental Concepts in Economics : A Detailed Exposition, April 2006 (written in Japanese).
- Hayakawa, H., The Internal Rate of Return of Investment, the Marginal Efficiency of Investment, the Investment Decision Rule, and Tobin's Q, April, 2004.
- Hayakawa, H., Rationality of the Behavior of Firms : The Principle of Profit Maximization, May 2004.
- Hayakawa, H., The IS-LM Model and the Aggregate Demand Schedule as a Function of the General Price Level, September 2004.
- Hayakawa, H., The Rationality of Producers and the Labor Demand, October 2004. Hayakawa, H., The Rationality of Producers and Households and Aggregate Supply, October 2004. Part I : The Rationality of Producers and the Labor Demand, Part II : The Rationality of Households, Labor Supply, and Output Supply.
- Hayakawa, H., The Equi-marginal Principle, April 2005 (written in Japanese).
- Hayakawa, H., The New Keynesianism, May 2005 (written in Japanese).
- Hayakawa, H., The World of Keynes' Theory, Fall 2005.
- Hayakawa, H., Hall's Random Walk Hypothesis of Consumption, September 2005 (written in Japanese).
- Hayakawa, H., The Working of the Economy under Preferences for Variety (or Product Differentiation) and Asymmetric Information, October 2005,
- Hayakawa, H., Cost of Production, Employment of Labor, and Profit Maximization, March 2006 (in Japanese).
- Hayakawa, H., The World of Flexible Prices and Wages, April 2006.
- Hayakawa, H., Equilibrium When Prices Are Flexible and the Determination of the Equilibrium Price Level : The World of Classical Economics, March 2006 (written in Japanese).
- Hayakawa, H., The Joint Equilibrium of the Goods and Financial Markets and the Efficacy of Fiscal and Monetary Policies—IS Curve and LM Curve, April 2006 (written in Japanese).
- Hayakawa, H., A Help Note for Dynamic Programming and Macrodynamics, April 2006.
- Hayakawa, H., A Detailed Exposition of Robert Lucas' paper, "Expectations and the Neutrality of Money", April 2006.
- Hayakawa, H., Milton Friedman's Monetarism, April 2006 (written in Japanese).
- Hayakawa, H., Game Theory : the Prisoners' Dilemma, the Cournot Model of Duopoly, the Bertrand Model of Duopoly, and Dynamic Games with Complete and Imperfect Information, April 2006.
- Hayakawa, H., The IS-LM Model : A Mathematical Exposition, May 2006.

- Hayakawa, H., A Game–Structural Representation of an Economy and Coordination Failures (Asymmetric Nash Equilibrium, Symmetric Cooperative Equilibrium, Multiplicity of Equilibria, Spillovers, Pareto Ranking of Equilibria, Strategic Complementarities, and Multiplier Effect), April 2009 (written in Japanese). This is an extensive explanation of Russell Cooper and Andrew John’s 1988 QJE paper, “Coordinating Coordination Failures in Keynesian Models.”
- Hayakawa, H., The Measurement of GDP, the Flow of Income and Expenditure, and Investment–Saving Identity, May 2009.
- Hayakawa, H., The Rationality of Producers : The Production Function, the Cost of Production, and the Principle of Profit Maximization, Technological Innovations, and the Spontaneity of a Decentralized Economic Order, June 2009 (written in Japanese).
- Hayakawa, H., A Model of National Income Determination when Investment Varies as a Function of the Market Interest Rate, October 2009.
- Hayakawa, H., A Simple Exposition of Keynes’ World, October 2009.
- Hayakawa, H., Bonds : the Prices of Bonds, the Market Interest Rates, Holding Rates, Speculation, and Liquidity Trap, November 2009.
- Hayakawa, H., The Balance Sheet Identity, Determination of Market Interest Rates, and the Derivation of the LM Schedule, November 2009.
- Hayakawa, H., Simultaneous Equilibrium of the Goods and Asset Markets and Fiscal and Monetary Policies, December 2009.
- Hayakawa, H., The Equi–marginal Principle, Consumer Behavior, Demand Curve, the Fundamental Equation of the Theory of Value, the Existence of the Social Welfare Function, and the Concept of Pareto Superiority, May 2009 (written in Japanese).
- Hayakawa, H., Lecture notes on Lucas’s 1972 JET Paper : Expectations and the Neutrality of Money (written in Japanese).
- Hayakawa, H., The Spontaneity of Human Activities and the Spontaneous Order of Society and Economy, April 2009 (written in Japanese).
- Hayakawa, H., A Detailed Exposition of Robert Gibbons’ Game Theory for Applied Economists, April 2010. Chapters 1, 2, 3, and 4.
- Hayakawa, H., The Cournot Model of Duopoly and the Bertrand Model of Duopoly, May 2010.
- Hayakawa, H., Technology Shocks and the Intertemporal Substitution of Leisure : A Mathematical Example with Detailed Computations, May 2011.
- Hayakawa, H., How Lucas Revolutionized our Way of Thinking in Macroeconomics : A Detailed Exposition, January 2012.
- Hayakawa, H., The Modeling of the Economy Based on the Equilibrium Demand and the Equilibrium Supply, January 2012.
- Hayakawa, H., From Monopoly to Perfect Competition : An Extension of the Cournot–Nash Game (Monopoly, Duopoly, Oligopoly, and Perfect Competition), April 2012.
- Hayakawa, H., Consumer Theory : Part I, Preference Relation and the Utility Function ; Part II, Consumer Choice as the Optimal Choice Behavior, Part III, How Consumers Respond to Price Changes : The Slutsky Equation, April 2012.

- Hayakawa, H., Input Games : An Example of Strategic Complementarities, May 2012.
- Hayakawa, H., Trading Externalities : An Example of Strategic Complementarities and Multiple Equilibria, May 2012.
- Hayakawa, H., The Equi-Marginal Principle in Human Choice : From Static to Intertemporal Choice, May 2012.
- Hayakawa, H., A model of Non-Autarkic Equilibrium with Demand Externalities : An Example of Strategic Complementarities and Multiple Equilibria, June 2012.
- Hayakawa, H., A Detailed Exposition of Equilibrium Unemployment as Caused by Asymmetric Information : Shapiro and Stiglitz's Paper, "Equilibrium Unemployment as a Worker Discipline Device," July 2013.
- Hayakawa, H., The Rationality of Producers and the Market Structures, May 2013.
- Hayakawa, H., The Legacies of the Ideas of Intertemporal Optimization and Rational Expectations, December 2013. Revised September 2014.
- Hayakawa, H., Equilibrium Modeling of a Macroeconomy and the Efficacy of Fiscal and Monetary Policies, December 2013.
- Hayakawa, H., Technology Shocks and the Intertemporal Substitution of Leisure : A Computational Example Using a Mathematical Model, January 2014.
- Hayakawa, H., The Cournot-Duopoly Game, February 2014. This is a comprehensive coverage of the Cournot, Bertrand, and Stackelberg models of duopoly and oligopoly, and the possibility of collusion.
- Hayakawa, H., A Pure-Strategy Perfect Bayesian Equilibrium : How to analyze if any given separating or pooling strategy can be supported as a pure-strategy perfect Bayesian equilibrium in signaling games, April 2014.
- Hayakawa, H., The Theory of Consumer Behavior, April 2013, extensively revised April 2014.
- Hayakawa, H., An Equilibrium Modeling of a Market Economy : The Goods Market, the Financial Market, and the Labor Market, September 2014.
- Hayakawa, H., Impact of Technological Innovations on the Aggregate Production Function : How Much of Output Growth Can be Attributed to Technological Changes, October 2014.
- Hayakawa, H., The Labor Market Signaling Game : Separating and hybrid perfect Bayesian equilibria. December 2014.

MEMBERSHIP IN PROFESSIONAL ASSOCIATIONS

- American Economic Association (active)
- Econometric Society (active)
- Western Economic Association International (active)
- The Society for the Promotion of Economic Theory (past)
- European Economic Association (past)
- Japanese Economic Association (past)

UNIVERSITY GOVERNANCE AND ADMINISTRATIVE EXPERIENCES

Chairman (Interim), Department of Economics, University of Georgia, 1982–1984

Director of Graduate Studies, Department of Economics, University of Georgia, 1985–86

Member of the Executive Committee, College of Business Administration, University of Georgia, 1982–84

Member of the University Senate, University of Georgia, 1982–84

PUBLIC SERVICES

Panel discussant at the U.S.–Japan Trade Symposium, San Diego, California, November 1974.

Discussant at The Chevron Faculty Forum, San Francisco, California, January 1983.

President of the School Board, the Japanese Language School, Atlanta, Georgia, 1984–85.

Speaker at the Citizen's Lecture of Seto City, Aichi Prefecture, Japan, 1987.

Speaker at the Citizen's Lecture of Aichi Prefecture, Nagoya, Japan, 1996.

(Title : What Causes Economic Fluctuations?)

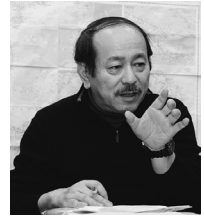
Invited Speaker as Anniversary Lecturer at Nagoya University, 1997 (spoke on the theme of the development of macroeconomic theory since 1960s).

宮本勝教授 略歴および主要業績目録

1. 生年月日 1945年3月31日

2. 学歴及び職歴

- 1964年4月 上智大学外国語学部イスパニア語学科入学
 1968年3月 上智大学外国語学部イスパニア語学科卒業
 1968年4月～1969年3月 東京大学教養学部文化人類学分科研究生
 1969年5月～1971年1月 アテネオ・デ・マニラ大学文理学部大学院社会学・人類学専攻研究生
 1971年4月 東京都立大学大学院社会科学研究科社会人類学専攻修士課程入学
 1973年1月～1974年12月 フィリピン大学文理学部大学院人類学専攻研究生
 1975年3月 東京都立大学大学院社会科学研究科社会人類学専攻修士課程修了（文学修士）
 1975年4月 東京都立大学大学院社会科学研究科社会人類学専攻博士課程入学
 1976年3月 東京都立大学大学院社会科学研究科社会人類学専攻博士課程中途退学
 1976年4月～1985年9月 国立民族学博物館助手
 1985年10月～1993年3月 国立民族学博物館助教授
 1986年2月 文学博士の学位取得（東京都立大学社博20号）
 1993年4月～ 中央大学総合政策学部教授



3. 兼職歴及び学会役員等

- 1991年11月1日～1993年3月31日 中央大学総合政策学部開設実行委員会委員
 1997年4月～1999年3月 日本民族学振興会評議員

4. 賞罰

- ・1978年5月 第9回澁澤賞（財団法人民族学振興会）受賞『論文「ハヌノー・マンヤン社会の構成」その他の功績』
- ・1987年11月 第15回金田一京助博士記念賞（金田一京助博士記念会）受賞『フィリピンのハヌノー・マンヤン族の民族誌的研究の功績』

5. 著書等

(1) 著書

- ・『ハヌノー・マンヤン族——フィリピン山地民の社会・宗教・法』（南島文化双書8）第一書房，1986年.
- ・*The Hanunoo-Mangyan: Society, Religion and Law among a Mountain People of Mindoro Island, Philippines.* Senri Ethnological Studies No. 22. Osaka: National Museum of Ethnology, 1988.

(2) 編著書

- ・『アジア読本 フィリピン』（共編者：寺田勇文）河出書房新社，1994年.

- ・『社会と象徴——人類学的アプローチ』（共編者：大胡欽一・加治明・佐々木宏幹・比嘉政夫）岩田書院，1998年。
- ・『文化人類学講義——文化と政策を考える』（共編者：清水芳見）八千代出版，1999年。
- ・ *Cultural Adaptation in Borneo*. (Co-editor: Patricia Regis) Sabah Museum Monograph Volume 7. Kota Kinabalu: Department of Sabah Museum, 2002.
- ・『くもめごと>を処理する』（くらしの文化人類学6）雄山閣，2003年。
- ・ *Legal Culture in South-East Asia and East Africa*. (Co-editor: Judeth John Baptist) Sabah Museum Monograph Volume 11. Kota Kinabalu: Department of Sabah Museum, 2008.

6. 訳書

- ・ロバート・レッドフィールド『未開世界の変貌』（共訳者：染谷臣道）みすず書房，1978年。
- ・オスカー・ルイス『貧困の文化——メキシコのく五つの家族く』（共訳者：高山智博・染谷臣道）思索社，1985年。（後に，筑摩書房，2003年。）

7. 論文等

- ・「本・分家関係マイ」上智大学史学会・史学研究会（編）『東上総の社会と文化——千葉県長生郡総合調査——』上智大学史学会・史学研究会，pp. 274-289, 1968年。
- ・「葬制」上智大学史学会・史学研究会（編）『東上総の社会と文化——千葉県長生郡総合調査——』上智大学史学会・史学研究会，pp. 366-369, 1968年。
- ・“A Note on Muslim Social Organization in the Philippines.” *Sha: A Quarterly Record of Social Anthropology*. Vol. 5, No. 4, pp. 96-117, 1971.
- ・“Fieldtrips to Buhid Areas in Oriental Mindoro.” *Sha: A Quarterly Record of Social Anthropology*. Vol. 7, Nos. 2-3, pp. 27-34, 1974.
- ・「ミンドロ島調査報告（1）：Hanunoo-Mangyan 族の生活空間（集落／森）と世界観」『日本民族学会第14回研究大会抄録』日本民族学会，pp. 3-4, 1975年。
- ・「ミンドロ島調査報告（2）：Hanunoo-Mangyan 族の社会——双系親族とリーダーシップ」『第29回日本人類学会・日本民族学会連合大会発表抄録』日本人類学会・日本民族学会，pp. 25-26, 1975年。
- ・「ミンドロ島調査報告（3）：ハヌヌー・マンギャン族の死生観」『日本民族学会第15回研究大会抄録』日本民族学会，pp. 11-12, 1976年。
- ・「ハヌヌー・マンギャン族の葬儀に関する調査報告」『社会人類学年報』Vol. 2, pp. 221-243, 1976年。
- ・「井野本部落（東区）の民間信仰——年中行事と通過儀礼を中心に——」（共著者：菊地京子）志津西ノ台遺跡調査団（編）『佐倉市埋蔵文化財報告（2）—志津西ノ台遺跡』佐倉市，pp. 121-148, 1976年。
- ・「ハヌヌー・マンギャン社会の構成について」『国立民族学博物館研究報告』2巻1号，pp. 84-122, 1977年。
- ・「ハヌヌー・マンギャン文化の研究」『民博通信』（国立民族学博物館）第1号，pp. 72-73, 1977年。
- ・「人生儀礼（2）—葬制」（共著者：染谷臣道）船橋民俗調査団（編）『中野木の民俗』船橋市教育委員会，pp. 13-18, 1978年。
- ・「フィリピン少数民族の食事」『週間朝日百科 世界の食べ物』朝日新聞社，pp. 222-228, 1982年。
- ・“Hanunoo-Mangyan Social World.” *Senri Ethnological Studies*. No. 2, pp. 147-195, 1979.
- ・「愛のお守り」『月刊みんぱく』（国立民族学博物館）4巻9号，pp. 15-17, 1980年。

- ・「埋葬の一年後遺体と食事をともにする」『季刊民族学』（千里文化財団）6巻7号，pp. 80-81, 1982年.
- ・「宗教と世界観」綾部恒雄・永積昭（編）『もっと知りたいフィリピン』（もっと知りたい東南アジア5）弘文堂，pp. 103-135, 1983年.
- ・“Customary Law Among the Hanunoo-Mangyan of Mindoro Island.” In Philippine Studies Program (ed.), *Filipino Tradition and Acculturation: Research Report II*. Tokyo: Institute of Social Sciences, Waseda University, pp. 123-160, 1983.
- ・「最近のミンドロ島調査メモから——ある殺人事件をめぐる——」『民博通信』第22号，pp. 56-61, 1983年.
- ・「フィリピンの民俗社会における訴訟——ハヌノオ・マンヤン族の事例から」『日本民族学会第22回研究大会発表抄録』日本民族学会，pp. 11-12, 1983年.
- ・“Customary Law in a Simple Society of the Philippines: A Case Study of the Hanunoo-Mangyan.” In H.W. Finkler (compiler), *Papers of the Symposia on Folk Law and Legal Pluralism*. Ontario: Commission of the Symposia on Folk Law and Legal Pluralism, XIth International Congress of Anthropological and Ethnological Sciences, Vancouver, Canada, pp. 767-799, 1983.
- ・「東南アジア焼畑農耕民の集落——フィリピンの事例を中心に——」『季刊考古学』（雄山閣）第7号，pp. 73-76, 1984年.
- ・“Disputes among the Hanunoo-Mangyan of Mindoro Island: A Case Study in the Wasig Local Community.” In Yasushi Kikuchi (ed.), *Filipino Tradition and Acculturation: Research Report III*. Tokyo: The Institute of Social Sciences, Waseda University, pp. 119-159, 1985.
- ・「フィリピンのマンヤン文字」『月刊みんぱく』9巻6号，pp. 12-13, 1985年.
- ・「ミンドロ島ハヌノオ・マンヤン族の‘裁判人’」『国立民族学博物館研究報告』10巻2号，pp. 243-271, 1985年.
- ・「フィリピンのマンヤン族」岩田慶治・松原正毅・栗田靖之（編）『子どもの世界』くもん出版，pp. 124-127, 1985年.
- ・「ハヌノオ・マンヤン族の訴訟について」馬淵東一先生古稀記念論文編集委員会（編）『社会人類学の諸問題』第一書房，pp. 187-201, 1986年.
- ・「お守りの世界——ミンドロ島ハヌノオ・マンヤン族の宗教観」『月刊みんぱく』10巻2号，p. 11, 1986年.
- ・「(フィールドノートから) ミンドロ島日記」『月刊みんぱく』10巻5号，pp. 16-17, 1986年.
- ・「ハヌノオ・マンヤン族の一生」『季刊民族学』35号，pp. 66-75, 1986年.
- ・「隠れた親族」『季刊人類学』（京都大学人類学研究会）17巻3号，pp. 215-220, 1986年.
- ・“The Abai and Conflict Management in Palau: A Case Study of Airai Village.” *The Prompt Report of the 5th Scientific Survey of the South Pacific*. 鹿児島大学南太平洋海域研究センター，pp. 105-108, 1987年.
- ・「農民」石川栄吉・梅棹忠夫・他（編）『文化人類学辞典』弘文堂，pp. 577-578, 1987年.
- ・「民俗文化」石川栄吉・梅棹忠夫・他（編）『文化人類学辞典』弘文堂，pp. 757-758, 1987年.
- ・「モロ」石川栄吉・梅棹忠夫・他（編）『文化人類学辞典』弘文堂，pp. 781-782, 1987年.
- ・「マニラのムスリム・コミュニティ」須藤健一・山下晋司・吉岡政徳（編）『社会人類学の可能性II 歴史のなかの社会』弘文堂，pp. 178-199, 1988年.

- ・「ミンドロ島日記」梅棹忠夫（編）『異文化との出会い』パン・リサーチ・インスティテュート，pp. 188-199, 1988年.
- ・ハヌノオ・マンヤン族の紛争処理——“予定されない出来事”の民族誌」松原正毅（編）『人類学とは何か——言語・儀礼・象徴・歴史——』日本放送出版会，pp. 271-301, 1989年.
- ・「マニラ首都圏のイスラム教徒」『南太平洋海域調査研究報告』（鹿児島大学南太平洋海域研究センター）No. 17, pp. 44-56, 1989年.
- ・「集会所アバイ」鹿児島大学南太平洋海域研究センター（編）『オセアニア物語』めこん，pp. 160-161, 1989年.
- ・「ルングス族調査ノート」『海外学術調査ニュースレター』（国際学術研究総括班）No. 15，pp. 32-34, 1990年.
- ・「政治・法・戦争」『国立民族学博物館研究報告別冊』第11号，pp. 136-139, 1990年.
- ・「ルングス族の法文化——東マレーシア・サバ焼畑稲作民の事例研究——」白鳥芳朗教授古稀記念論叢刊行会（編）『アジア諸民族の歴史と文化』六興出版会，pp. 141-154, 1990年.
- ・“Judges' in the Philippine Highlands: A Study of Hanunoo-Mangyan Legal Culture.” *Monismus oder Pluralismus der Rechtskulturen? Monistic or Pluralistic Legal Culture? Rechtstheorie*. Beiheft 12. Berlin: Dunker & Humboldt, pp. 343-349, 1991.
- ・「ルングス法の精神」『月刊みんなく』第15巻5号，pp. 15-17, 1991年.
- ・「法と紛争」村武精一・佐々木宏幹（編）『文化人類学』（有斐閣Sシリーズ）有斐閣，pp. 115-124, 1991年.
- ・「東南アジア島嶼部における法文化の人類学的研究」『民博通信』第56号，pp. 32-35, 1992年.
- ・「民族」早瀬晋三・鈴木静男（編）『フィリピンの辞典』同朋舎出版，pp. 9-10, 1992年.
- ・「慣習法」早瀬晋三・鈴木静男（編）『フィリピンの辞典』同朋舎出版，pp. 105-106, 1992年.
- ・「少数民族政策」早瀬晋三・鈴木静男（編）『フィリピンの辞典』同朋舎出版，pp. 179-180, 1992年.
- ・「民間説話」早瀬晋三・鈴木静男（編）『フィリピンの辞典』同朋舎出版，pp. 346-347, 1992年.
- ・「ハヌノオ・マンヤン紛争処理法——フィリピン・ミンドロ島の固有法」湯浅道男・小池政行・大塚滋（編）『法人類学の地平』成文堂，pp. 135-142, 1992年.
- ・「民族問題と異文化研究——フィリピンの事例から」『中央評論』203号，pp. 32-38, 1993年.
- ・「ルングス族の儀礼と法——東マレーシア・サバの法文化研究ノート」佐々木高明（編）『農耕の技術と文化』創美社，pp. 671-686, 1993年.
- ・「マンヤン法の精神」宮本勝・寺田勇文（編）『アジア読本 フィリピン』河出書房新社，pp. 233-239, 1994年.
- ・「ルソン島に渡ったムスリム——フィリピン」片倉もとこ（編）『イスラーム教徒の社会と生活』（講座イスラーム世界）栄光教育文化研究所，pp. 117-152, 1994年.
- ・「原住民裁判所 東南アジア」梅棹忠夫（監修）『世界民族問題事典』平凡社，p. 398, 1995年.
- ・「フィリピン・ムスリム協会」梅棹忠夫（監修）『世界民族問題事典』平凡社，pp. 969-970, 1995年.
- ・「くもめごと」はどう処理されるか——法人類学入門」国立民族学博物館（編）『民族学ア・ラ・カルト——みんなくゼミナールの20年——』国立民族学博物館，p. 150, 1997年.
- ・「東マレーシア・サバの法文化——ロトゥッドの事例研究——」大胡欽一・佐々木宏幹・加治明・比嘉政夫・宮本勝（編）『社会と象徴——人類学的アプローチ』岩田書院，pp. 261-272, 1998年.
- ・「フィールドワークの実践」宮本勝・清水芳見（編）『文化人類学講義——文化と政策を考える』八千

- 代出版, pp. 126–138, 1999 年.
- ・「ハヌノオ・マンヤン」綾部恒雄（監修）『世界民族事典』弘文堂, p. 522, 2000 年.
 - ・「フィリピン」綾部恒雄（監修）『世界民族事典』弘文堂, pp. 829–831, 2000 年.
 - ・「ブヒッド」綾部恒雄（監修）『世界民族事典』弘文堂, pp. 579–580, 2000 年.
 - ・「マンヤン」綾部恒雄（監修）『世界民族事典』弘文堂, p. 662, 2000 年.
 - ・“Javanese Legal Culture in Yogyakarta: A Case Study of Conflict Management at Beringharjo Market.” In Yoshimichi Someya (ed.), *Psychosomatic Responses to Modernization and Invention of Cultures in Insular Southeast Asia*. Shizuoka: Shizuoka University, pp. 19–32, 2001.
 - ・“Legal Culture in Sabah: A Case Study of the Rungus in Pitas and the Lotud in Tuaran.” In Masaru Miyamoto and Patricia Regis (eds.), *Cultural Adaptation in Borneo*. Sabah Museum Monograph Volume 7. Kota Kinabalu: Department of Sabah Museum, pp. 31–58, 2002.
 - ・「総説 紛争（もめごと）はどう処理されるか」宮本勝（編）『<もめごと>を処理する』雄山閣, pp. 1–26, 2003 年.
 - ・「ジャワの集団リンチと紛争回避——ジョクジャカルタの公設市場から」宮本勝（編）『<もめごと>を処理する』雄山閣, pp. 112–137, 2003 年.
 - ・「宮本勝（1945–）『ハヌノオ・マンヤン族——フィリピン山地民の社会・宗教・法』第一書房, 1986」小松和彦・田中雅一・谷泰・原毅彦・渡辺公三（編）『文化人類学文献事典』弘文堂, p. 635, 2004 年.
 - ・「マレーシア・サバ州の紛争処理——慣習法と原住民裁判所」『証券奨学同友会報』証券奨学同友会, pp. 21–23, 2006 年.
 - ・「サバ州のタム（定期市）」*JAM News*.（日本マレーシア研究会）No. 37, pp. 2–3, 2007 年.
 - ・“Indigenous Law and Native Court in Sabah: A Case Study of the Penampang Kadazan.” In Masaru Miyamoto and Judeth John Baptist (eds.), *Legal Culture in South–East Asia and East Africa*. Sabah Museum Monograph Volume 11. Kota Kinabalu: Department of Sabah Museum, pp. 21–67, 2008.
 - ・「コンパドラスゴ」石井米雄・高谷好一・立本成文・土屋健治・池端雪浦（監修）『【新版】東南アジアを知る事典』平凡社, p. 168, 2008 年.
 - ・「マンヤン族」石井米雄・高谷好一・立本成文・土屋健治・池端雪浦（監修）『【新版】東南アジアを知る事典』平凡社, p. 441, 2008 年.
 - ・「法人類学の可能性——東マレーシア・サバの調査から——」中央大学総合政策学部（編）『新たな「政策と文化の融合」——総合政策の挑戦』中央大学出版部, pp. 463–477, 2009 年.
 - ・“Legal Culture in Sabah, Malaysia: An Anthropological Study.” *Introducing the Faculty of Policy Studies: Integrating Policy and Culture*. Tokyo: Chuo University, pp. 24–36, 2010.
 - ・「海外フィリピン人労働者（OFWs）」伊藤眞（編）『多文化都市と新相互行為圏(NIZ)の形成——新しい「国際移動研究センター」構築に向けた研究』首都大学東京社会人類学研究室・国際移動研究センター, pp. 150–157, 2013 年.
 - ・“Panudlak Agricultural Rituals.” In Jesus T. Peralta (ed.), *Pinagmulan: Enumerations from the Philippine Inventory of Heritage*. National Commission for Culture and the Arts (NCCA) and Intangible Cultural Heritage in the Asia–Pacafic (ICHCAP), pp. 156–158, 2013.
 - ・“Secondary Burial Rites.” In Jesus T. Peralta (ed.), *Pinagmulan: Enumerations from the Philippine Inventory of Heritage*. National Commission for Culture and the Arts (NCCA) and Intangible Cultural

Heritage in the Asia–Pacafic (ICHCAP), pp. 161–163, 2013.

- “Cosmology.” In Jesus T. Peralta (ed.), *Pinagmulan: Enumerations from the Philippine Inventory of Heritage*. National Commission for Culture and the Arts (NCCA) and Intangible Cultural Heritage in the Asia–Pacafic (ICHCAP), pp. 200–201, 2013.
- “Supernaturls.” In Jesus T. Peralta (ed.), *Pinagmulan: Enumerations from the Philippine Inventory of Heritage*. National Commission for Culture and the Arts (NCCA) and Intangible Cultural Heritage in the Asia–Pacafic (ICHCAP), pp. 203–206, 2013.

List of Contributors
執筆者紹介（執筆順）

- | | |
|-----------------------------|--|
| YAMANOI, Junichi
山野井 順一 | Associate Professor, Faculty of Policy Studies, Chuo University
中央大学総合政策学部特任准教授 |
| Mark N. ZION
マーク・N. ザイオン | Associate Professor, School of Global Studies, Tama University
多摩大学グローバルスタディーズ学部准教授 |
| HAYAKAWA, Hiroaki
早川 弘晃 | Professor, Faculty of Policy Studies, Chuo University
中央大学総合政策学部教授 |
| Tabea BIENEK
タベア ビーネック | Foreign Contract Language Lecturer, Faculty of Policy Studies, Chuo University
中央大学総合政策学部外国人外国語契約講師 |
| Cy MATHEWS
サイ マシューズ | Foreign Contract Language Lecturer, Faculty of Policy Studies, Chuo University
中央大学総合政策学部外国人外国語契約講師 |
| YAMASHIRO, Masae
山城 雅江 | Associate Professor, Faculty of Policy Studies, Chuo University
中央大学総合政策学部准教授 |